

第96図 第2号住居跡出土遺物実測図(2)

第2号住居跡出土遺物観察表（第95・96図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
8	須恵器	环	[14.0]	3.8	9.0	灰	普通	底部回転へア切り、底部下端回転へア切り	覆土下層	95%内面漆付着 PL36	
9	須恵器	高台付环	16.3	[5.2]	—	灰石・石英・雲母	にがい黄褐	普通	底部回転へア切り後高台作り付け	覆土下層	90%内面漆付着 PL36
10	須恵器	环	[13.8]	3.6	8.0	灰石・石英・雲母	明赤褐	普通	底部回転へア切り後一方角のへア切り、 底部下端手持ちへア切り	床面	75%二次焼成
11	須恵器	环	[14.2]	3.7	[9.2]	長石・斜状鉱物	暗灰褐	良好	底部回転へア切り、底部下端手持ちへア切り	床面	45%
12	須恵器	环	[13.0]	3.9	7.8	灰石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転へア切り後一方角のへア切り、 体部下端手持ちへア切り	床面	20%
13	須恵器	环	[10.7]	3.6	6.2	灰・石英・雲母等	灰青	普通	底部回転へア切り後回転へア切り、体部内、 外側に凹凸	覆土下層	65% PL36
14	須恵器	高台付环	[16.8]	5.7	11.4	長石・石英	黄灰	普通	底部回転へア切り後高台貼り付け、 底部内側付け	覆土下層	80% PL37
15	須恵器	高台付环	[11.0]	4.0	[6.5]	長石	褐灰	良好	底部回転へア切り後高台貼り付け、 底部外側一部自然崩	覆土下層	15%
16	土師器	小形甕	14.5	19.2	8.0	長石・石英・赤色粘土	棕	普通	体部外表面にへア切り、体部内側上位ナデ、 内面漆付着不明、輪郭入相	床面	65%
17	須恵器	甕	[22.8]	34.4	[16.6]	長石・石英・雲母	棕	普通	体部外表面の平行線、底部下端 へア切り、内面当て具鉢	覆土下層	40%二次焼成

番号	器種	長さ	径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	支脚	(8.4)	5.4	(139.8)	土製	全面ナデ	床面	

第3号住居跡（第97～99図）

位置 調査区南東部のC3-h5区に位置し、台地からの緩やかな南東斜面部に立地している。

重複関係 西側壁が第2号住居跡の南東側コーナー付近を掘り込んでいる。

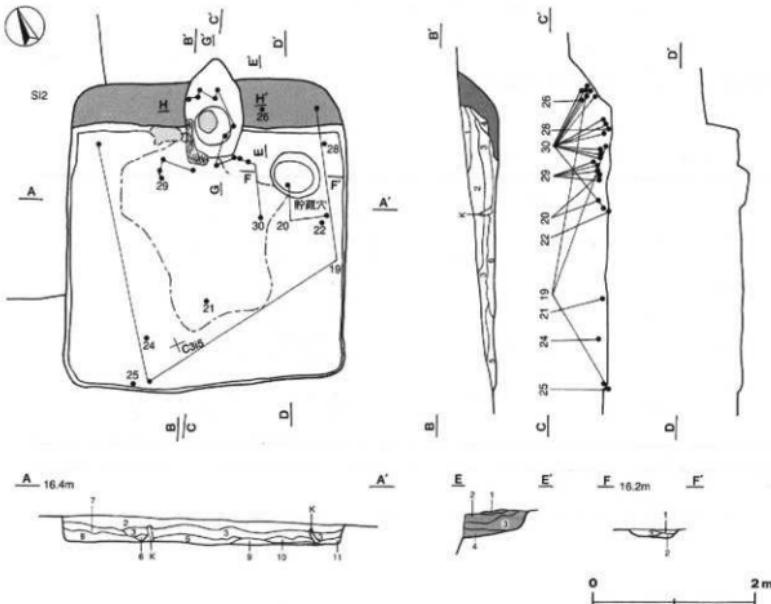
規模と形状 一辺が3.37m前後の方形で、主軸方向はN-23°-Eである。壁高は6～42cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。また、竈の両側に砂質粘土を貼った棚状施設を有している。

床 ほぼ平坦であり、南壁中央部から竈付近にかけて踏み固められている。また、床面から大量の炭化材や焼土塊が検出され、床面は被熱のため赤変した部分も認められた。壁溝は確認することができなかった。

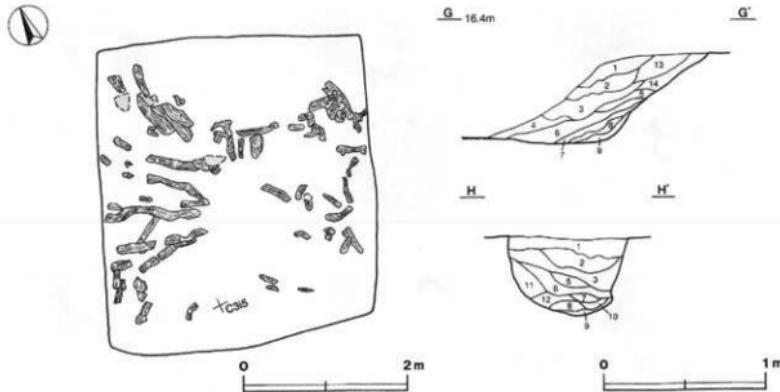
竈 北壁中央部に付設され、焚き口から煙道部までは124cmほどである。袖部は遺存しておらず、床面にも痕跡を確認することもできなかったが、床面に掘り込みが無いことから床面と同じ高さの地山面を砂質粘土で構築されていたと推定できる。火床部も床面と同じ高さの地山面をそのまま利用しており、被熱のため赤変硬化している。壁外への掘り込みは84cmほどで、煙道は火床部から外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量	9 にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土粒子中量
2 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	10 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
3 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量	11 暗赤褐色	粘土粒子多量、粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・粘化粒子少量	12 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物・粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック微量
5 にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	13 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化物少量	14 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
7 にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化物少量		
8 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物微量		



第97図 第3号住居跡実測図(1)



第98図 第3号住居跡実測図(2)

柵状施設 北壁中央部の竈を中心として左右に設けられており、奥行60cm前後、幅140cm前後の長方形である。左右ともほぼ同じ大きさで、床面から50cmほどの高さで確認することができた。柵状施設の構築状況は、住居の掘り込み後に柵状施設部分を掘り込み、竈構築後に壁全体と柵の掘り込み部分に砂質粘土を貼り付けたと考えられる。竈部分には袖部の粘土材が遺存していないが、竈上層の粘土材と柵状施設の粘土材には違いが無い。

また、竈西側柵部には床面から柵面にかけて炭化材が倒れかかるようにして出土している。

柵状施設土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・砂粒少量・焼土粒子微量	3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量	4 暗褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量

ピット 柱穴の配列や出入り口施設の位置を想定して床面と造構の外側を精査したが確認できなかった。

貯藏穴 北東コーナー部に付設されている。長径60cm、短径55cmほどの円形で、深さは20cmほどである。

貯藏穴土層解説

1 暗褐色 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	3 にせい黄褐色 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子微量
2 にせい赤褐色 烧土粒子少量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量	

覆土 11層からなる。第5～6層・8～11層は焼土ブロックや炭化物を含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積であり、第1～4層・7層はレンズ状の堆積を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	7 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物少量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量	8 暗褐色 烧土ブロック中量、炭化物少量
3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量	9 黑褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 灰褐色 烧土粒子少量、炭化物中量、ローム粒子・粘土粒子微量	10 暗褐色 炭化物中量、ローム粒子・焼土ブロック少量
5 棕褐色 烧土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物中量
6 暗褐色 烧土ブロック・炭化物中量、ローム粒子微量	

遺物出土状況 土師器片154点(坏類50、甕類104)、須恵器片120点(坏類86、甕類32、蓋2)の他に、混入したと考えられる繩文土器片4点と陶器片1点が出土している。19は底部に「子」と墨書きされており、柵状施設及び壁際の床面から出土したものが接合したもので、20は体部に「壬」と墨書きされており、北東コーナー付近から出土している。24・25は南柵からそれぞれ出土し、25は体部外間に墨書きが認められるが判読できない。26は竈東側の柵状施設から出土しており、柵状施設の使用状況の一端を示している。29は竈前から出土している。

所見 床面に炭化材が出土しており、焼失住居である。時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第99図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表（第99回）

番号	種別	器種	口径	底高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
19	土器器	环	13.6	4.8	6.0	粘土燒成	褐色	普通	表面に凹凸があり後多方向のへた割り、全体に茶褐色で内面にへた割き	床面	80%壁中1丁子 PL26-39
20	上部器	环	12.5	4.5	6.0	粘土燒成	褐色	普通	表面に凹凸があり後多方向のへた割り、全体に茶褐色で内面にへた割き	床下下層	20%壁中1丁子 PL26-39
21	土器器	环	12.8	4.1	7.0	粘土燒成	褐色	普通	表面に凹凸があり後多方向のへた割り、全体に茶褐色で内面にへた割き	床面	83% PL36
22	上部器	环	12.8	4.3	6.5	粘土燒成	褐色	普通	表面に凹凸があり後多方向のへた割り、全体に茶褐色で内面にへた割き	床面	40%
24	上部器	环	13.4	7.5	-	粘土石英・白色灰子	褐色	普通	表面に凹凸があり後多方向のへた割り、全体に茶褐色で内面にへた割き	床下下層	20%壁中1丁子
25	上部器	环	14.0	4.6	-	長石・紫青色灰子	明黄褐色	普通	表面に凹凸があり後多方向のへた割り、全体に茶褐色で内面にへた割き	床面	10%壁中1丁子
26	土器器	环	21.5	8.6	10.2	石英・石英・碧玉	褐色	普通	表面に凹凸があり後多方向のへた割り、全体に茶褐色で内面にへた割き	壁上	60%壁中1丁子 PL40
27	土器器	高台付皿	15.8	(3.3)	[7.2]	黄石・青磁	褐色	普通	表面に凹凸があり後多方向のへた割り、全体に茶褐色で内面にへた割き	床面	75% PL37
29	須恵器	盤	-	(20.0)	17.3	黄石・石英・青磁	褐色	普通	表面に凹凸があり後多方向のへた割り、全体に茶褐色で内面にへた割き	床下下層	45%壁中1丁子 PL36
30	土器器	盘	16.6	(21.5)	-	黄石・长石・赤玉	褐色	普通	表面に凹凸があり後多方向のへた割り、全体に茶褐色で内面にへた割き	壁上・壁中・床	55%

第4号住居跡（第100回）

位置 調査区南東部のC3 b6に位置し、台地からの緩やかな南東斜面部に立地している。

重複関係 南西コーナー付近を第1号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 繁作による削平のため、南東壁や床が壊された状態で検出された。確認された窓の位置や硬化面の広がりなどから、N-22°-Eを主軸方向とする一辺が3.00mほどの方形と推定できる。確認された壁高は18cmほどで、外傾して立ち上がっている。また、確認面では住居外への砂質粘土の散らばりは検出されなかつたが、竈の側面の壁に砂質粘土が貼り付けられていた痕跡や壁際床面の砂質粘土の散らばりなどが確認され、棚状施設を有する可能性を考えられる。

床 繁作のため一部削平されているが、遺存する部分はほぼ平坦で、中央部から竈付近が踏み固められている。壁際は確認することができなかった。

竈 北壁は完全に確認されていないが、遺存した壁との位置から判断して、北東壁の中央部に付設されていたと推定され、焼き口から煙道部までは102cmである。砂質粘土の散らばりから、袖部は床面と同じ高さの地山面に構築されていたと考えられる。火床面も袖部と同様の地山面を4cmほど畠状に掘りくぼめて使用しており、赤変している。壁外への掘り込みは70cmほどで、煙道は火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒	褐色	燒土ブロック少量	5	にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒多量	ローム粒子・粘土粒子微量
2	灰	褐色	燒土粒子・粘土粒子・砂粒少量	6	褐色	燒土粒子・砂粒多量	燒土ブロック微量
3	墨	褐色	粘土粒子・砂粒中量	7	にぶい赤褐色	燒土粒子中量	粘土粒子・砂粒少量
4	暗	褐色	燒土ブロック少量	8	暗赤褐色	燒土粒子中量	粘土粒子・砂粒微量
			ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量	9	にぶい赤褐色	燒土粒子多量	ローム粒子少量

棚状施設 北側壁に砂質粘土が貼り付けられており、竈の左右に棚状施設を有する可能性が考えられる。しかし、確認面では粘土の広がりを検出できなかつたので平面形については不明である。

ピット 穀穴の配列や出入り口施設の位置を想定して床面と遺構の外側を精査したが確認できなかつた。

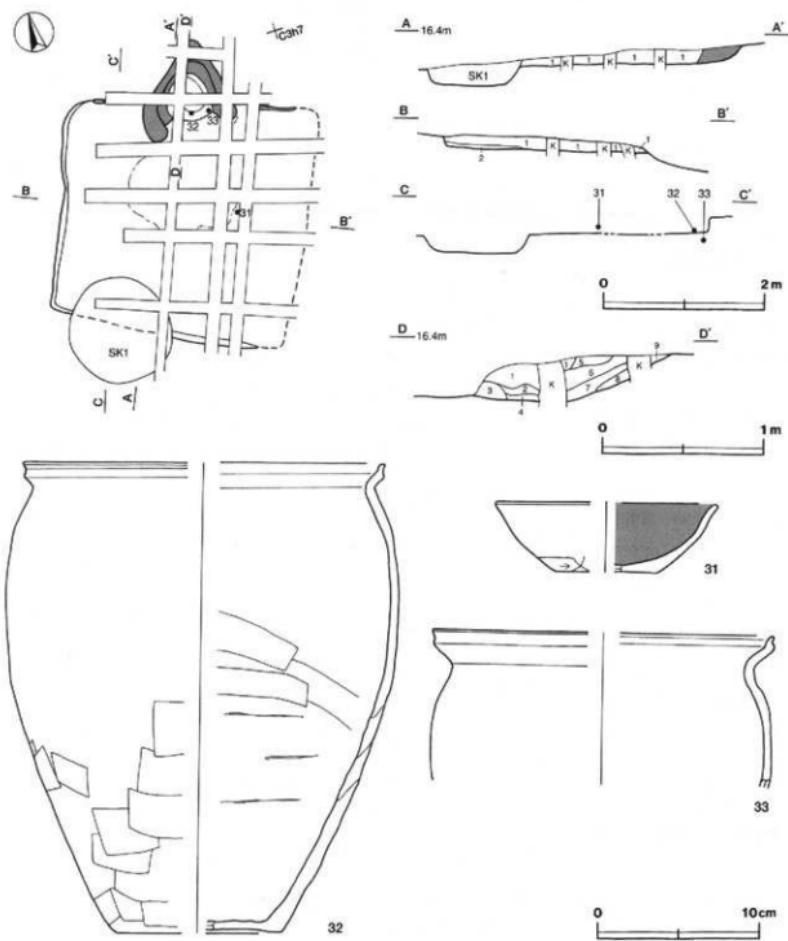
覆土 2層からなる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1	暗	褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
2	暗	褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土器器片189点（坏類12、甕類177）、須恵器片18点（坏類9、甕類7、盤2）の他に、流れ込みと考えられる弥生土器片1点と陶器片1点が出上している。32・33は竈の火床部から重なって出土しており、遺棄されたものと考えられる。

所見 本跡は、耕作による削平が激しいため確認できた覆土はわずかであり、時期を判定する遺物が少ないが、時期は9世紀後半と考えられる。



第100図 第4号住居跡・出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表（第100図）

番号	種 別	器 形	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
31	土器器	环	[13.8]	4.3	[6.2]	瓦石-石英-赤玉-砂	棕	普通	底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り、 底部ノコ手持ちヘラ削り、内面調整不明。	覆土下層	40%
32	土器器	壺	[22.2]	29.2	[10.0]	瓦石-石英-赤玉-砂	にぶい棕	普通	体部外表面下位ヘラ削り、体部内面ヘラナフ。 縦横み痕	竈火床部	50%
33	土器器	壺	[21.2]	(9.4)	-	長石-石英-赤玉	にぶい棕	普通	口辺部体部内・外面横ナメ	竈火床部	5%

第5号住居跡（第101・102図）

位置 調査区南東部のC4北区に位置し、台地からの緩やかな南東斜面部に立地している。

重複関係 南側壁が第13号住居跡の北側壁を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による削平のため、南東側の床が壊された状態で検出されたため壁は確認されていないが、竈の位置や硬化面の広がりなどから、N-7°-Eを主軸方向とする長軸3.30m、短軸2.60mのやや東西に長い長方形と推定される。確認された壁高は15cmほどで、外傾して立ち上がっている。また、確認面では住居外への砂質粘土の散らばりは検出されなかったが、竈の両側の壁に砂質粘土が貼り付けられており、棚状施設を有する可能性が考えられる。

床 遺存する部分はほぼ平坦で、中央部が踏み固められているが、壁溝は確認することができなかった。

竈 耕作による削平のため北壁は完全に確認されないが、遺存した壁との位置から、北壁の中央部に付設されていたと推定され、火床面などが遺存しているだけで、焚き口から煙道部までは85cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており、袖部幅は84cmである。火床部は、袖部と同様の地山面を5cmほど皿状に掘りくぼめて使用しており、著しく赤変硬化している。壁外への掘り込みは45cmほどで、煙道部の立ち上がりは明確に確認することができなかった。

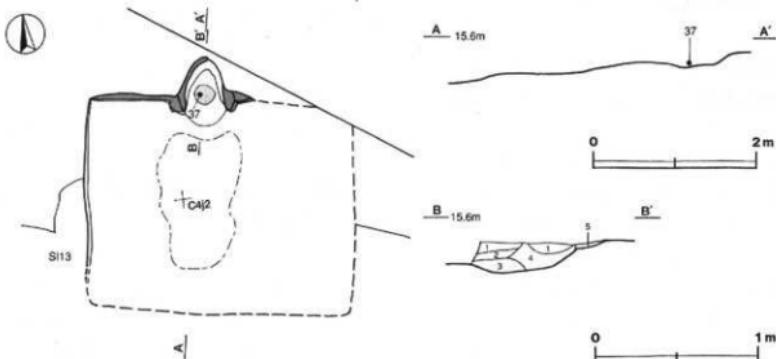
堆土層解説

- | | | |
|--------------------------|--------------------------|------------------------------|
| 1 黒 褐 色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 | 2 黒 褐 色 粘土粒子・砂粒中量、粘土粒子少量 | 3 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量 |
|--------------------------|--------------------------|------------------------------|

4 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量

5 棕 暗 褐 色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量

棚状施設 北側壁に砂質粘土が貼り付けられており、竈の左右に棚状施設を有する可能性が考えられる。しかし、確認面では粘土の広がりを検出できなかったので平面形については不明である。



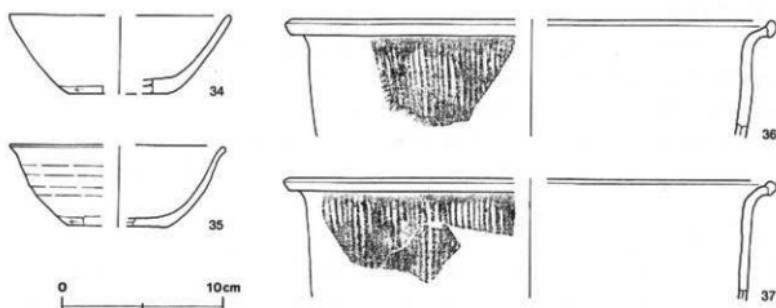
第101図 第5号住居跡実測図

ピット 柱穴の配列や出入り口施設の位置を想定して床面と遺構の外側を精査したが確認できなかった。

覆土 確認できなかった。

遺物出土状況 土師器片51点（坏類9、甕類42）、須恵器片9点（坏類1、甕類8）が出土している。37は竈の火床部から出土している。

所見 本跡は、耕作による削平が激しいため覆土は確認できず、時期を判定する遺物が少ないが、時期は9世紀後半と考えられる。



第102図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表（第102図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
34	土師器	坏	[13.6]	4.8	[6.4]	長石・赤色粒子	浅黄緑	普通	底泥回転・手掠り後へ削り、 体部下端手掠ちへ削り	竈覆土中	35% 二次焼成
35	土師器	坏	[13.2]	5.0	[6.2]	長石・石英・雲母	にぶい緑	普通	底泥回転・手掠り後へ削り、 体部下端手掠ちへ削り	竈覆土中	35% 一次焼成
36	須恵器	鉢	[29.8]	7.2	—	長石・石英・雲母	にぶい緑	普通	体部外面上位縱線の押き	竈覆土中	5% 二次焼成
37	須恵器	鉢	[29.8]	7.3	—	長石・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	体部外面上位縱線の押き	竈火床部	5% 二次焼成

第6号住居跡（第103～105図）

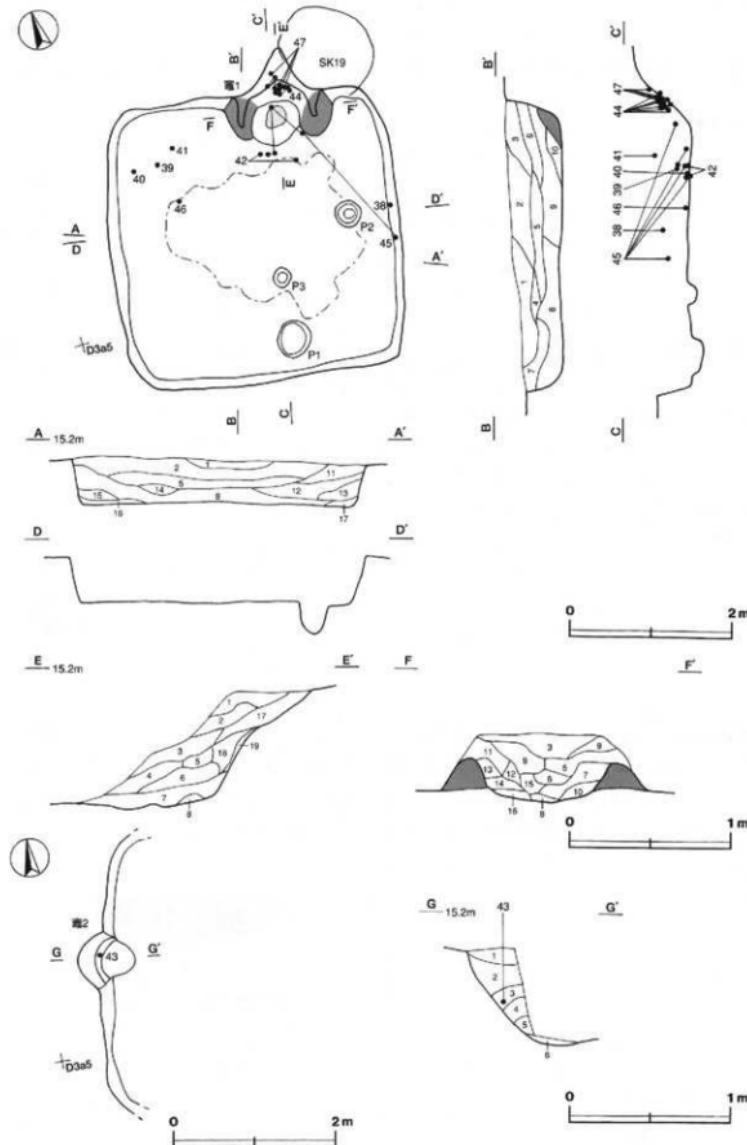
位置 調査区南東部のC 3.5区に位置し、台地からの緩やかな南東斜面部に立地している。

重複関係 北東コーナーを第19号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺が3.60mほどの方形で、主軸方向はN-15°-Eである。壁高は42～65cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。中央部が硬く踏み固められているが、壁溝は確認されなかった。

竈 北壁や東寄りと西壁中央部の2か所から確認された。遺構確認当初から2か所の竈が確認されたが、西竈の煙道部の砂質粘土や焼土の残りがわずかであることから北竈の建て替え以前の竈と判断できた。竈1は、焚き口から煙道部までは120cmほどである。作り替えられた竈であるため、袖部は踏み固められた床面に砂質粘土上に構築されており、袖部幅は130cmほどである。火床部も袖部と同じように床面を利用しており、被熱のため赤変硬化している。壁外への掘り込みは60cmほどで、煙道は火床部から外傾して立ち上がっている。竈2は、西壁中央部に構築されており、床面の下から焚き口を確認でき、作り替えの時点で焚き口部分に新たにロームを充填して床として使用している。焚き口から煙道部までは70cmほどである。両袖部は、作り替えた後に



第103図 第6号住居跡実測図

埋め戻されて壁の一部として利用されていたため遺存していない。床面にも痕跡を確認することができなかつたが、床面と同じ高さの地山面を利用していたと推定できる。火床部は床面と同じ高さの地山面を5cmほど皿状に掘りくぼめて使用していたと思われるが、変色した部分は確認できなかった。壁外への掘り込みは30cmほどで、煙道は外傾して立ち上がっている。

竈1土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	9 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 暗赤褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量	10 暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子・砂粒微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量	11 暗褐色	粘土粒子・砂粒微量、焼土ブロック・炭化物微量
4 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量	12 黄褐色	粘土粒子・砂粒極多量、焼土ブロック微量
5 暗赤褐色	粘土粒子・砂粒多量、ローム粒子・焼土ブロック微量	13 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子・砂粒微量	14 暗赤褐色	焼土ブロック多量、粘土粒子・砂粒微量
7 暗赤褐色	焼土ブロック多量、粘土粒子・砂粒微量、炭化物微量	15 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化物微量
8 黒褐色	粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土ブロック少量	16 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量

竈2土層解説

1 褐色	ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量	4 暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
2 黑褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量	5 暗赤褐色	焼土粒子・ローム粒子中量、粘土粒子・砂粒少量
3 暗褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量

ピット3か所が検出された。P1は深さ12cmで、竈の作り替え後の出入り口施設に伴うピットと考えられる。

また、P2は深さ38cmで、竈の作り替え以前の出入り口施設に伴うピットと判断できる。P3は深さ12cmであるが、性格は不明である。また、床面と遺構の外側を精査したが柱穴は確認できなかった。

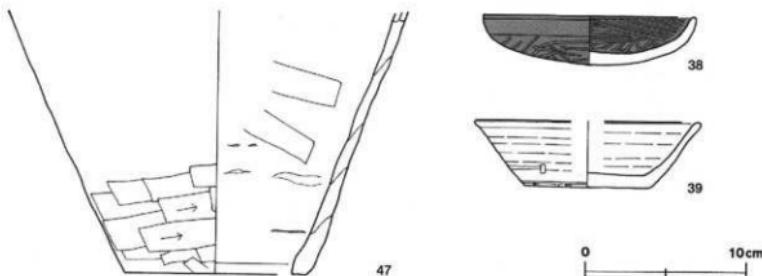
覆土 17層からなる。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

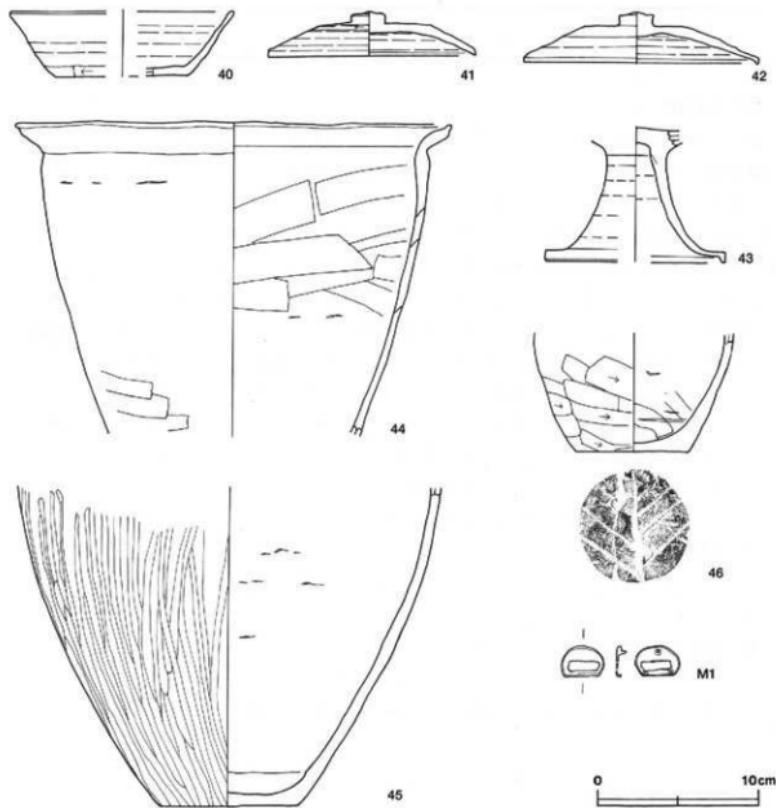
1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	10 暗褐色	焼土粒子多量、ロームブロック少量、粘土粒子・砂粒微量
2 黑褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	11 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
3 黑褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	12 黑褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
4 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量	14 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
6 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量	15 黑褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量
7 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量	16 黑褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子・炭化物少量、焼土粒子微量	17 暗褐色	ロームブロック少量
9 黑褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量	18 黑褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量

遺物出土状況 土器片310点(坏類43、甕類267)、須恵器片131点(坏類92、甕類34、蓋5)、金属製品1点(帶金具)の他に、混入と考えられる繩文土器片11点、弥生土器片1点が出土している。41は竈1前の床面から、44・47は竈1の煙道部から重なって出土している。43は竈2の覆土中層から出土しており、埋め戻しによる混入と判断した。また、38は東壁の中央部から出土しているが混入である。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第104図 第6号住居跡出土遺物実測図(1)



第105図 第6号住居跡出土遺物実測図(2)

第6号住居跡出土遺物観察表 (第104・105図)

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
38	土師器	环	13.0	2.9	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部外面へラöz割りヘラナデ、 体部内面ヘラナデ	覆土中層	90% PL37
39	環形器	环	[13.8]	4.2	7.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部外縁手摺ちへラöz割り、 底部内縁手摺ちへラöz割り	覆土下層	45% 二次焼成
40	瓶形器	环	[13.8]	4.0	[8.1]	長石・石英・雲母	灰白 灰	普通	底部外縁手摺ちへラöz割り、 底部内縁手摺ちへラöz割り	覆土下層	40%
41	瓶形器	瓶	12.8	2.8	-	長石・石英	暗灰青	良好	大井型左回りのへラöz割り、 内・外面一部自然縫	覆土中層	95% PL38
42	瓶形器	瓶	14.6	3.2	-	長石・石英・雲母	灰	普通	火炎部右回りのへラöz割り	床面	70% PL38
43	瓶形器	高盤	-	(8.3)	[11.1]	長石・石英	灰	普通	柄部ロクロ成形後ナデ	竪2壁道部	30%
45	土師器	甕	-	(19.6)	8.6	長石・石英・雲母	褐	良好	体部外面下部へラöz割り後へ標き、 体部内面ヘラナデ、輪組み痕	竪壁上・中・下層	35%
46	土師器	小形甕	-	(7.3)	7.0	長石・石英・雲母	灰	良好	体部外面下部へラöz割り、 体部内面ヘラナデ、輪組み痕底部木焦痕	床面	30%
44	土師器	甕	26.9	(19.3)	-	長石・石英・針状鉱物	褐	普通	体部外縁へラöz割り、体部内面ヘラナデ	竪1壁道部	40%
47	土師器	甕	-	(16.3)	11.2	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外縁下部へラöz割り、体部内面ヘラナデ、 輪組み痕	竪1壁道部	30%

番号	器種	縦	横	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	金具	1.9	2.7	(0.6)	(2.5)	銅	丸頭表金具、表面に3か所の鋸歯	灰土中	PL40

第7号住居跡（第106・107図）

位置 調査区南東部のC2e0区に位置し、台地からの緩やかな南東斜面部に立地している。

規模と形状 耕作による削平を激しく受けているため長軸2.80m、短軸2.40mの方形もしくは長方形と推定される。主軸方向はN-10°-Eであり、確認された壁高は13cmで、外傾して立ち上がっている。

床 遺存している部分はほぼ平坦である。竈付近が踏み固められているが、豊溝は確認されなかった。

竈 北壁の中央部と西側壁の中央部と思われる2か所で確認された。遺構確認当初は時期の違う住居跡の重複と判断したが、調査の結果、竈の作り替えと判断できた。また、北壁の竈には袖部が遺存しており、西壁の竈を作り替えたものと判断できる。竈1は北壁中央部に付設されており、焚き口から煙道部までは110cmほどである。袖部幅は130cmほどで、床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部も同様に床面と同じ高さの地山面を利用しておらず、被熱のため赤変している。壁外への掘り込みは64cmほどで、煙道部の立ち上がりはわずかに遺存しているが、外傾して立ち上がっていったと推定される。竈2は、西壁中央部に構築されており、削平の影響を激しく受けているため、焚き口と火床部が確認できるのみである。遺存している焚き口から煙道部までは60cmほどで、火床面は地山面を皿状に掘りくぼめて使用しており、被熱のため赤変している。煙道部の立ち上がりは遺存状態が悪いため、明確には確認できなかった。

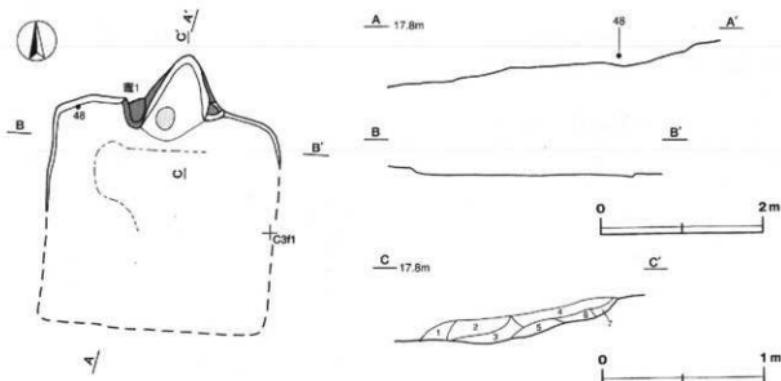
竈1 土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|----------|--------------------------|
| 1 砂 赤褐色 | ローム粒子、焼土ブロック、粘土粒子・砂粒微量 | 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 砂 赤褐色 | 焼土ブロック、粘土粒子・砂粒少量、炭化物微量 | 6 塗 赤褐色 | 焼土粒子多量、粘土粒子・砂粒多量 |
| 3 極端赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 7 塗 赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子・砂粒微量 | | |

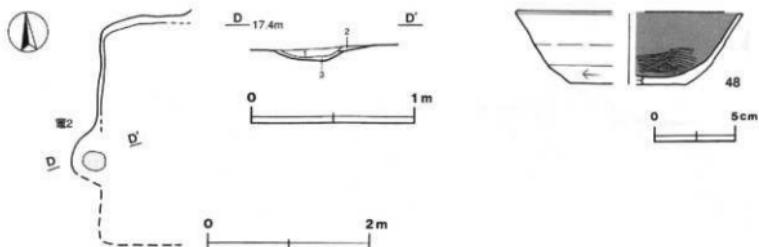
竈2 土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|----------|----------------|
| 1 塗 赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土ブロック少量 | 3 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック、ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 | | |

ピット 柱穴の配列や出入り口施設の位置を想定して床面と遺構の外側を精査したが確認できなかった。



第106図 第7号住居跡実測図



第107図 第7号住居跡・出土遺物実測図

覆土 確認できなかった。

遺物出土状況 土師器片47点（壺類9、甕類38）、須恵器片3点（壺類2、甕類1）が出土している。48は北西壁際から出土している。

所見 本跡は、耕作による削平が激しいため確認できた覆土はわずかであり、時期を判定する遺物が少ないが、時期は9世紀前半と考えられる。

第7号住居跡出土遺物観察表（第107図）

番号	種 別	器 様	口径	器高	底径	断 上	色 調	塊成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
48	土師器	壺	[140]	4.5	[7.0]	葉石・石英・赤色粒子	棕	普通	底部凹部へラ切り後底輪へラ削り、体部上端回転部へラ削り内面へラ削り	覆土下層	30%

第8号住居跡（第108・109図）

位置 調査区南東部のC39区に位置し、台地からの緩やかな南東斜面部に立地している。

規模と形状 耕作による削平のため南東コーナー付近は遺存していないが、検出された部分からN-23°-Eを主軸方向とする長軸4.20m、短軸3.65mのやや東西に長い長方形であると推定される。確認された壁高は30cmほどで、外傾して立ち上がっている。また、確認面では住居外への砂質粘土の散らばりは検出されなかつたが、竈の両側の壁に砂質粘土が貼り付けられており、棚状施設を有する可能性を考えられる。

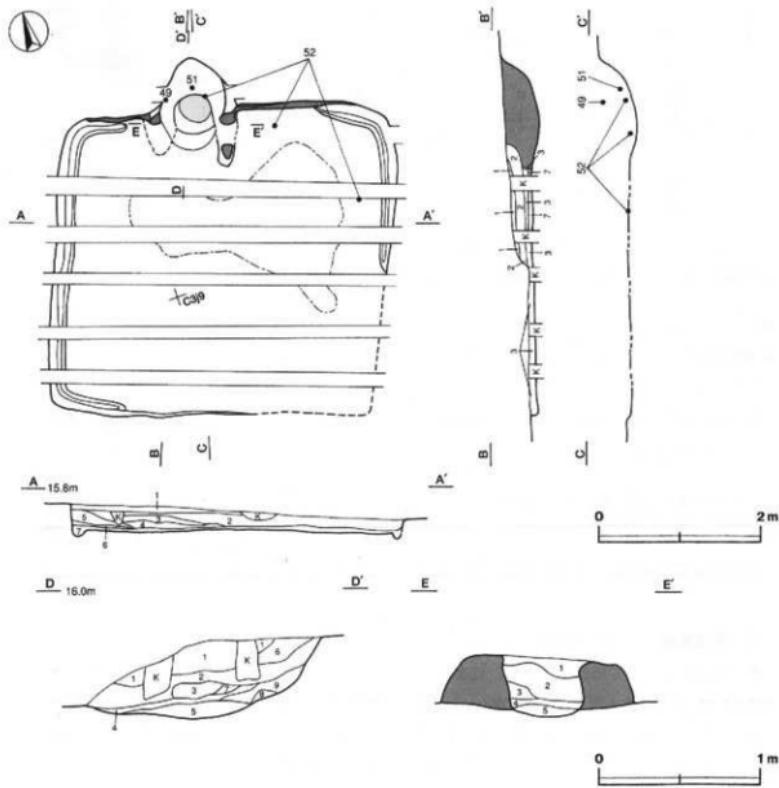
床 耕作によって床面が一部壊されているが、確認された部分はほぼ平坦である。中央部から竈付近までが踏み固められており、壁溝は北東コーナー付近と西側で一部確認されているが全周はしていない。

竈 北壁のやや西寄りに付設されており、焼き口から煙道部までは110cmほどである。袖部は床と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されているが、耕作による搅乱を受けており、確認できた袖部幅は117cmほどである。

火床部は、袖部と同様に地山面を16cmほど皿状に掘りくぼめて使用しており、被熱のため赤変硬化している。壁外への掘り込みは60cmほどで、煙道は火床部から外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒 馬 色	粘土粒子・砂粒中量、燒土粒子微量	6 に ぶい 暗 色	粘土粒子・砂粒中量、燒土粒子微量
2 黒 馬 色	燒土ブロック少量、炭化物・粘土粒子・砂粒微量	7 暗 馬 色	燒土ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量
3 に ぶい 黄褐色	粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック微量	8 極 暗 馬 色	粘土粒子・砂粒中量、燒土粒子少量
4 極 暗 暗褐色	燒土ブロック少量、粘土粒子・砂粒微量	9 黒 馬 色	粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量、燒土ブロック・炭化粒子微量
5 に ぶい 赤褐色	燒土ブロック・粘土粒子・砂粒少量		



第108図 第8号住居跡実測図

棚状施設 北側壁に砂質粘土が貼り付けられており、窓の左右に棚状施設を有する可能性が考えられる。しかし、確認面では粘土の広がりを検出できなかつたので平面形について不明である。

ピット 柱穴の配列や出入り口施設の位置を想定して床面と遺構の外側を精査したが確認できなかつた。

覆土 7層からなる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

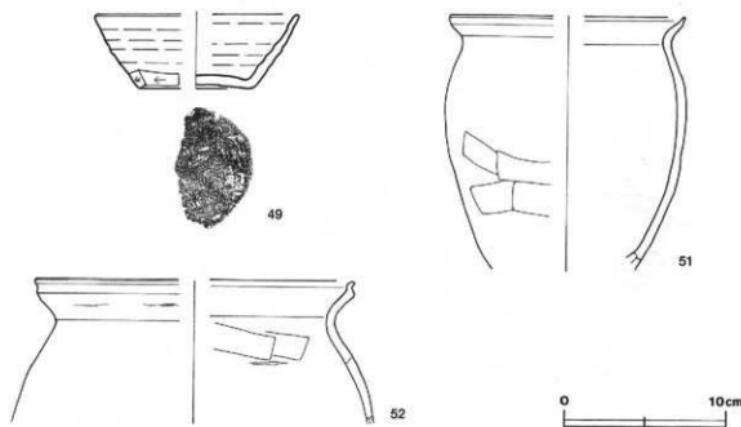
土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	5	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量	6	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量・桃土粒子・炭化物微量	7	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量・焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量			

遺物出土状況 土師器片122点(坏類3, 壊類119), 須恵器片55点(坏類29, 壊類17, 蓋9)が出土している。49は窓覆土上層から出土している。51は底部と体部の一部が耕作機械により失われてはいるが窓の火床部から逆位で出土しており、支脚に転用された可能性が高い。また、52は口縁部が窓の火床部から、体部が窓前の床

面から出土したものが接合された。

所見 本跡は、耕作による削平が激しいため確認できた覆土はわずかであり、時期を判定する遺物が少ないが、竈内出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第109図 第8号住居跡出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表（第109図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
49	須恵器	环	[12.4]	4.6	[7.0]	長石・石英・赤母	灰黄	普通	底面側面へラ切り後多方向へハラ割り。 体部下部差付ちへラ割り	竈覆土上層	45%
51	土師器	小形甌	[14.6]	(15.6)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外下面へラ切り内面へラナデ	竈火床部	60% 二次焼成 PL37
52	土師器	甌	[19.6]	(8.7)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	内面へラナデ。輪積み板	竈底-竈覆土中層	5%

第9号住居跡（第110・111図）

位置 調査区南東部のC34区に位置し、台地からの緩やかな南東斜面部に立地している。

規模と形状 一辺が3.80m前後の方形で、主軸方向はN-73°-Wである。壁高は57~70cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。また、竈の右側に砂質粘土を貼った棚状施設を有している。

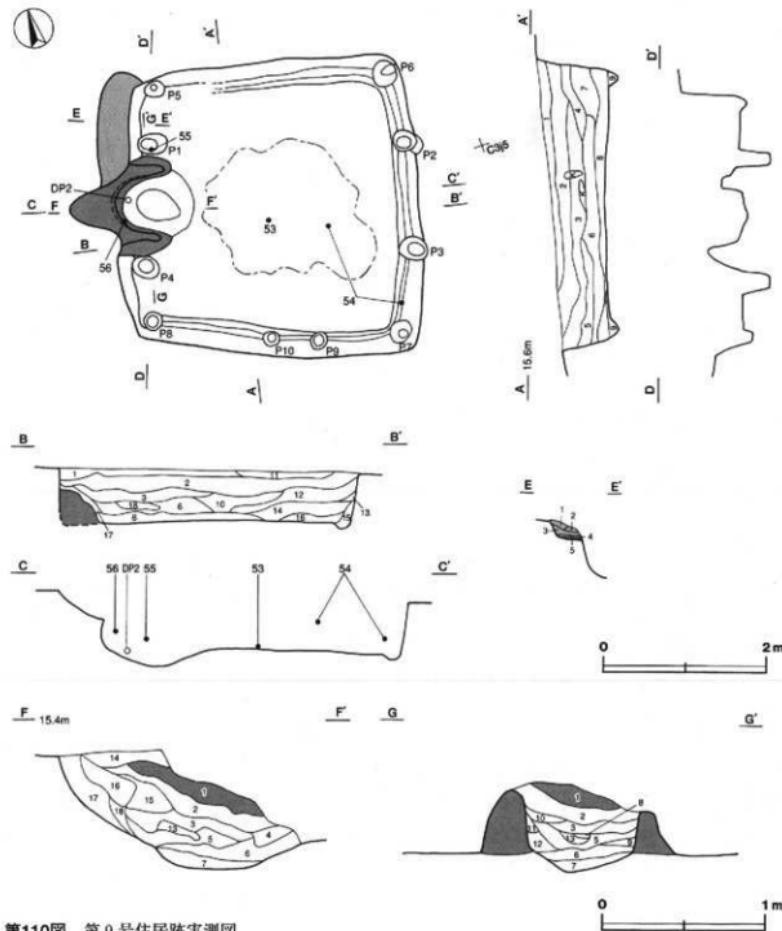
床 ほぼ平坦である。中央部全体が踏み固められており、壁溝は西壁を除いてほぼ全体から確認された。

竈 西壁中央部に付設されており、焚き口から煙道部までは153cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土上に構築されており、袖部幅は125cmほどである。火床部は20cmほど皿状に掘りくぼめて使用しているが、被熱による赤変や硬化した部分は確認されなかった。壁外への掘り込みは63cmほどで、煙道は火床部から外傾して緩やかに立ち上がっている。また、土製支脚が竈内から出土したが、住居の廃絶時点で遺棄された可能性が高い。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 楠脂褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 4 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |

5	灰 色	燒土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	12	にぶい赤褐色	燒土ブロック・粘土粒子・砂粒少量
6	極暗赤褐色	燒土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量	13	にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒多量、燒土ブロック中量
7	暗 灰 色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	14	暗 褐 色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
8	暗 赤 色	燒土粒子・粘土粒子・砂粒微量	15	暗 褐 色	粘土粒子・砂粒中量、燒土ブロック少量
9	にぶい赤褐色	燒土粒子・粘土粒子・砂粒少量	16	暗 褐 色	粘土粒子・砂粒多量、燒土ブロック微量
10	暗 赤 色	粘土粒子・砂粒中量、燒土ブロック少量	17	暗 赤 色	粘土粒子・砂粒少量、燒土ブロック微量
11	褐 色	粘土粒子・砂粒中量、燒土粒子少量	18	暗 褐 色	粘土粒子・砂粒中量、燒土ブロック微量



第110図 第9号住居跡実測図

棚状施設 窓右側に設けられており、奥行45cm前後、幅130cm前後の長方形で、床面から95cmほどの高さで確認することができた。住居の掘り込み後に棚状施設部分を掘り込み、質の異なる砂質粘土を5層に分けて貼り付けたと考えられる。棚状施設部の粘土材には砂粒が多く、砂粒の少ない窓材粘土との違いが明確である。

構造施設土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|----------|--------------|
| 1 にぶい褐色 | 地上粒子・粘土粒子少量 | 4 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 2 褐 色 | 粘土粒子中量・焼土ブロック微量 | 5 暗 褐 色 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗 褐 色 | 粘土粒子少量・ロームブロック・焼土粒子微量 | | |

ピット 10か所検出された。P1～P4は深さ33～44cmで、コーナー部の配置から主柱穴と考えられる。また、P5～P8は深さ10～26cmで、東・西壁の中央部に対峙するように位置していることから、補助柱穴的な可能性が想定される。P9・P10は深さ10～17cmで、性格は不明である。

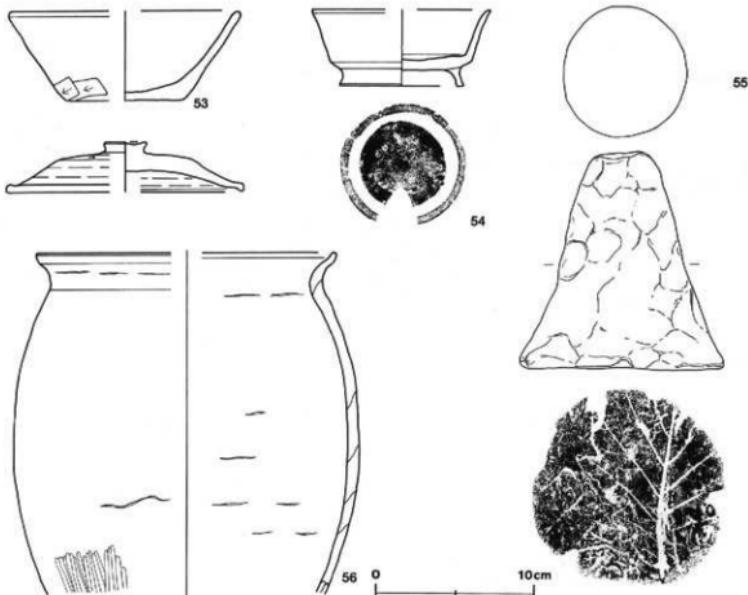
覆土 18層からなる。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 11 灰褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黑褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子・地上ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック微量 | 14 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 褐 色 | 粘土粒子中量・ロームブロック少量・焼土粒子微量 | 15 褐 色 | ローム粒子微量 |
| 7 黑褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量・焼土粒子微量 | 17 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒中量・ローム粒子少量・焼土粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 | 18 褐 色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片582点（坏類68、壺類514）、須恵器片316点（坏類207、壺類88、蓋21）、灰陶器片2点が出土している。53は中央部の床面、56は壺の煙道部からそれぞれ出土している。また、DP2は竈内から正位で出土しているが、住居の廃絶の段階で遺棄されたものと考えられる。出土土器数が多いが、そのほとんどが碎片であり、埋め戻しの段階で投棄されたものと考えられる。

所見 時期を判定する遺物が少ないが、出土土器から、埋め戻しの時期はほぼ9世紀前葉と考えられる。



第111図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表（第111図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
53	須恵器	杯	[14.5]	5.7	[7.0]	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	底部回転ヘラ削り、底部下端手持もヘラ削り	床面	30%
54	須恵器	高台付环	[11.2]	4.8	7.8	石英・長石	灰黄	良好	底部回転ヘラ削り後高台割り付け、口沿部一部自然崩	覆土中層	40% PL37
55	須恵器	蓋	[15.2]	3.1	-	長石・石英	灰	普通	天井部石回りのヘラ削り	覆土中層	20%
56	須恵器	蓋	[19.0] (21.6)	-	長石・石英・長石	棕	普通	全体外表面下位ヘラ削り後ヘラ削き、輪積み灰	煙道部	20%	

番号	器種	長さ	径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP2	支脚	13.4	4~13.3	1302.1	土製	全曲ナデ	煙道下層	

第10号住居跡（第112図）

位置 調査区南東部のC 3 d5区に位置し、台地からの緩やかな南東斜面部に立地している。

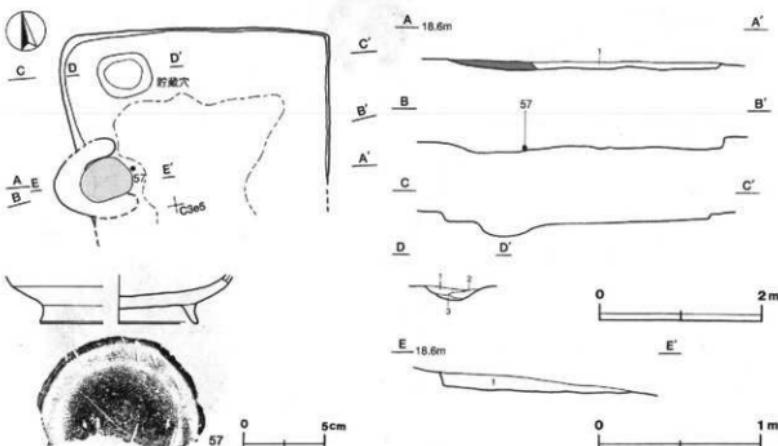
規模と形状 耕作による削平のため造構全体を確認することはできなかったが、竈の位置や硬化面の広がりなどから、N-82°Wを主軸方向とする一辺が3.30mほどの方形もしくは長方形と推定される。確認された壁高は12cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 確認された部分はほぼ平坦であり、中央部から竈前付近にかけて踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 西壁の中央部に付設されていたと推定され、焼き口から煙道部までは98cmである。袖部は遺存しておらず、周囲の床面に竈材の一部と思われる砂質粘土がわずかに確認されたことから、袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されていたと想定される。火床部も床面と同じ高さの地山面を使用しており、被熱のため赤変硬化している。壁外への掘り込みは36cmほどで、煙道は火床部から外傾して緩やかに立ち上がっている。

塗土層解説

I にぶい赤褐色 粘土粒子・砂粒中量、燒土ブロック少量



第112図 第10号住居跡・出土遺物実測図

ピット 柱穴の配列や出入り口施設の位置を想定して床面と遺構の外側を精査したが確認できなかった。

貯蔵穴 北西コーナー部に付設されている。長径68cm、短径54cmほどの楕円形で、深さは16cmほどである。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 暗色 砂粒多量、粘土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 2 灰褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・砂粒微量 | |

覆土 単一層である。覆土が少ないため堆積状況を確定するのは困難であるが、砂粒を多く含み、焼土粒子が細かいことなどから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | |
|-------------------|
| 1 灰褐色 砂粒多量、焼土粒子微量 |
|-------------------|

遺物出土状況 土師器片20点（甌類）、須恵器片11点（杯類）、灰陶陶器片1点が出土している。57は窓前の床面から出土しており、全体的に遺物は少ない。

所見 本跡は、耕作による削平が激しいため確認できた覆土はわずかであり、時期を判定する遺物が少ないが、出土土器から9世紀前半と考えられる。

第10号住居跡出土遺物観察表（第112図）

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の着置	出土位置	参考
57	須恵器	高付耳	-	(3.0)	[9.7]	3小片	褐色	灰白	普通	底部斜面へたり後底面貼り付け	床面 40% 考古学的実験

第11号住居跡（第113・114図）

位置 調査区南東部のD3a[4]に位置し、台地からの緩やかな南東斜面部の最下部に立地している。

規模と形状 南西側は調査区域外へ延びているため全体は確認できないが、東西3.75m、南北220mが確認された。平面形は方形または長方形と推定され、主軸方向はN=68°-Wである。確認された壁高は57cmほどで、外傾して立ち上がっている。また、確認面では住居外への砂質粘土の散らばりは検出されなかつたが、竈の両側の壁に砂質粘土が貼り付けられていた痕跡や壁際床面の砂質粘土の散らばりなどが確認され、側状施設を有する可能性が考えられる。

床 ほぼ平坦である。本跡は、調査区城内では斜面部の最下部に位置し、掘り込みが粘土層にまで達しているため、明確に硬化した面を確認することはできなかつた。壁溝は確認されなかつた。

竈 西壁に付設されているが南半分は調査区域外のため、全体を検出することはできなかつた。確認できた規模は、焚き口から煙道部まで120cmほどである。右袖部は若干遺存しており、付近の床面に袖材の一端の砂質粘土が確認されたことから、袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されていたと思われる。火床部も床面と同じ高さの地山面を25cmほど皿状に掘りくぼめて砂質粘土を充填して使用しており、砂質粘土層の上部が被熱のため赤変硬化している。壁外への掘り込みは68cmほどで、煙道は火床部から外傾して緩やかに立ち上がりつつある。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 粘土粒子・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量 | 7 暗赤褐色 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 粘土粒子・砂粒微量 | 8 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 |
| 4 暗赤褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 9 暗褐色 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック少量 |
| 5 にぶい赤褐色 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック少量 | |

柵状施設 窓右壁に砂質粘土が貼り付けられた痕跡が確認されたことから、柵状施設を有する可能性を考えられる。しかし、確認面では粘土の広がりを検出できなかったので平面形については不明であるとともに、南側は調査区域外へ延びるため柵状施設などは確認できなかった。

ピット 3か所検出された。P1・P2は、深さ51~64cmである。規模や配置から主柱穴と考えられる。P3は、深さ18cmであるが性格は不明である。出入り口施設の位置を想定して床面と遺構の外側を精査したが柱穴は確認できなかった。

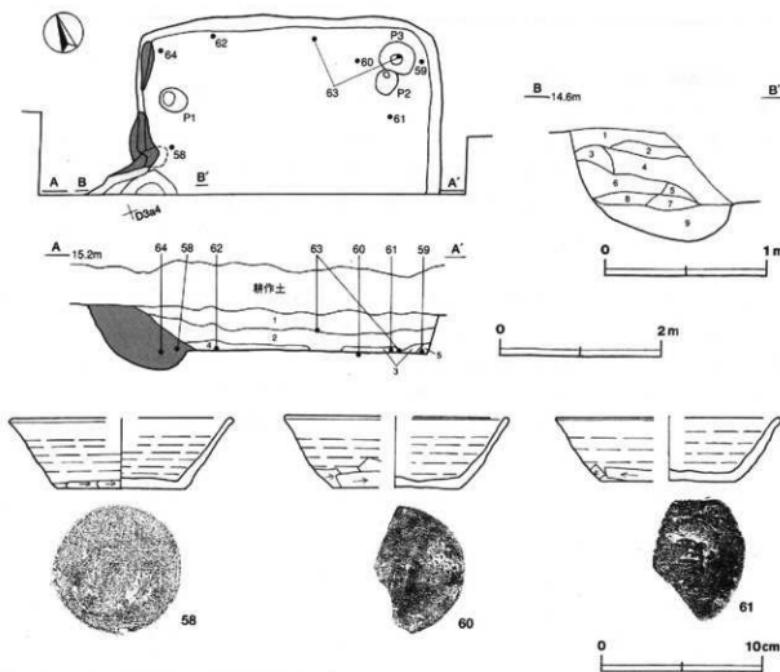
覆土 5層からなる。ブロック状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

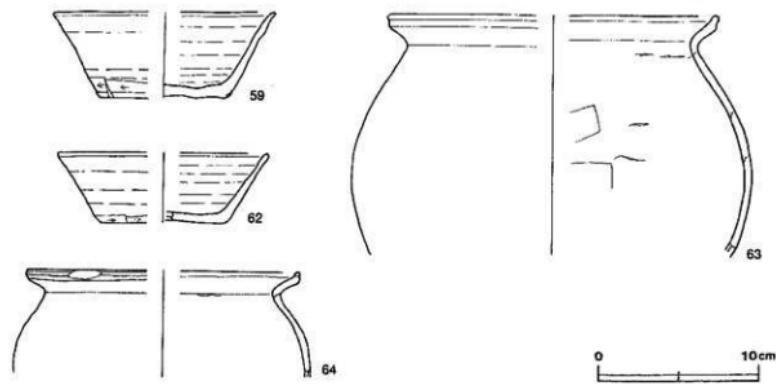
1 黑褐色	ローム粒子・焼土ブロック微量	4 黑褐色	粘土ブロック少量。ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量
2 極暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量	5 暗褐色	粘土ブロック少量。ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック・粘土粒子・砂粒微量		

遺物出土状況 土師器片153点（坏類16、甕類137）、須恵器片92点（坏類69、甕類19、蓋4）の他に、流れ込みと考えられる繩文土器片5点、弥生土器片1点が出土している。58は窓右前の床面、59~61は北東コーナー、62~64は北西コーナー部の床からそれぞれ出土し、遺棄された可能性が高い。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第113図 第11号住居跡・出土遺物実測図



第114図 第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表（第113・114図）

番号	種別	基盤	L径	器高	底径	施土	色調	焼成	丁正の特徴	出土状況	備考
58	須恵器	环	[13.5]	4.4	2.8	長石・石英・雲母	褐灰	良好	底部斜面へハラ削り後多方向のヘラ削り、全体面上部ハラ削り	床面	70% PL37
59	須恵器	环	[13.6]	5.5	[7.8]	長石・石英・雲母	灰青	良好	底部斜面へハラ削り後多方向のヘラ削り、全体面上部ハラ削り	床面	40%
60	須恵器	环	[13.8]	4.4	8.0	長石・石英	褐灰	良好	底部斜面へハラ削り後多方向のヘラ削り、全体面上部ハラ削り	床面	40%
61	須恵器	环	[13.8]	3.9	[6.3]	長石・石英・雲母	灰青灰	良好	底部斜面へハラ削り後多方向のヘラ削り、全体面上部ハラ削り	床面	35%
62	須恵器	环	[13.0]	4.6	17.5	長石・石英・雲母	青灰	普通	底部斜面へハラ削り、局部部端手打ちハラ削り	床面	25%
63	土師器	甕	[20.6]	(14.8)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	内面へラナダ、縫合み取	壁上付附	20%
64	土師器	甕	[16.8]	(6.5)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	11号部内、外側縫合、縫合み取	床面	3%

第12号住居跡（第115～118図）

位置 調査区南東部のC3j0区に位置し、台地からの緩やかな南東斜面部に立地している。

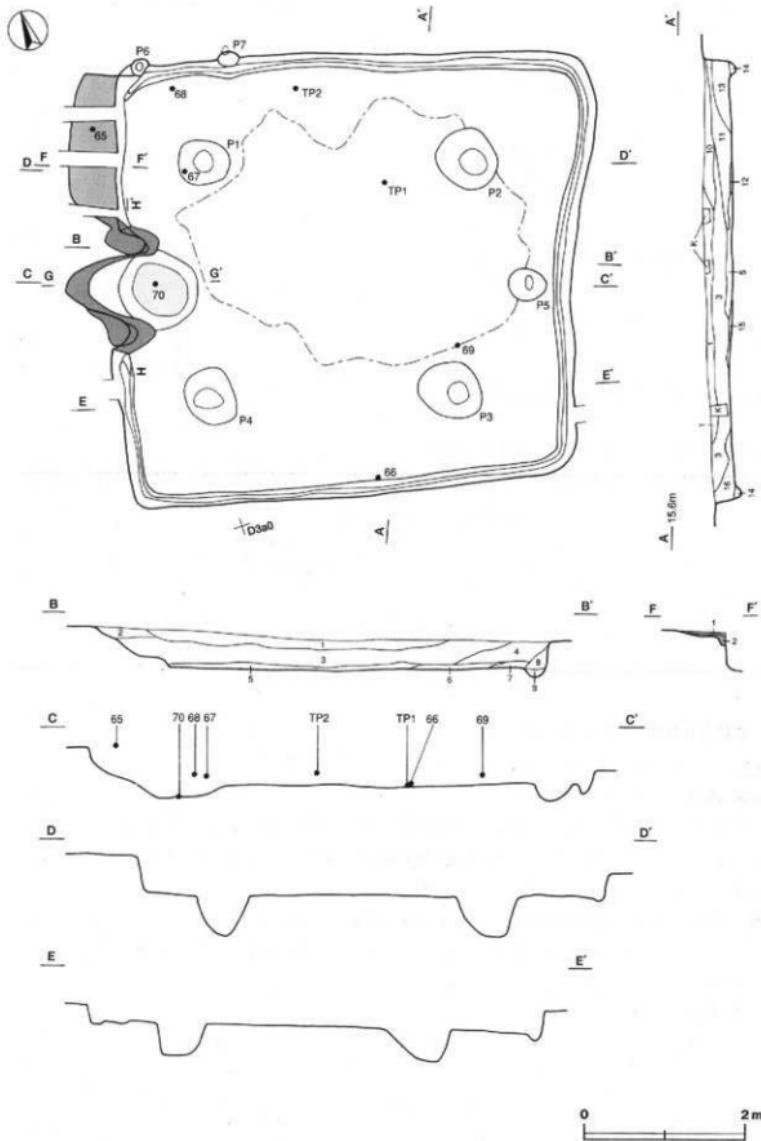
規模と形状 長径5.83m、短径5.49mほどの方形で、主軸方向はN-72°-Wである。壁高は18-45cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。また、窓の右側に砂質粘土を貼った棚状施設を有している。

床 ほぼ平坦であり、中央部の出入り口施設付近から窓付近までが踏み固められて硬化している。埠溝は、棚状施設が設置された壁以外は全周する。

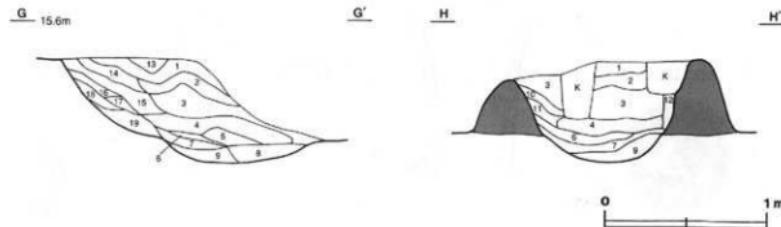
電 西壁の中央部に付設されており、焚き口から煙道部までは165cmほどである。袖部幅は156cmほどで、床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床面は、袖部と同様の地山面を15cmほど皿状に掘りくぼめて使用しており、被熱のため赤要している。

遺土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|-----------|------------------------|
| 1 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、燒土ブロック・炭化物微量 | 10 にぶい赤褐色 | 燒土粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、燒土ブロック微量 | 11 にぶい赤褐色 | 燒土粒子中量、粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、燒土ブロック・炭化物微量 | 12 赤褐色 | 燒土粒子・粘土粒子・砂粒多量 |
| 4 黑褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、燒土ブロック少少、炭化物微量 | 13 黒褐色 | 燒土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 |
| 5 墓赤褐色 | 燒土粒子中量、粘土粒子・砂粒少量、炭化物微量 | 14 にぶい青褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、燒土ブロック少少 |
| 6 にぶい赤褐色 | 燒土粒子少量、粘土粒子・砂粒微量 | 15 棕褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、燒土ブロック微量 |
| 7 墓赤褐色 | 燒土粒子多量、粘土粒子・砂粒少量 | 16 にぶい赤褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、燒土ブロック少少 |
| 8 棕赤褐色 | 燒土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック微量 | 17 墓赤褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、燒土ブロック少少 |
| 9 墓赤褐色 | 燒土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、炭化物微量 | 18 暗赤褐色 | 燒土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化物微量 |
| | | 19 墓赤褐色 | 燒土ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量 |



第115図 第12号住居跡実測図(1)



第116図 第12号住居跡実測図(2)

柵状施設 窓右側に設けられており、奥行60cm前後、幅180cm前後の長方形で、床面から50cmほどの高さで確認することができた。住居の掘り込み後に柵状施設部分を掘り込み、質の異なる砂質粘土を2層に分けて貼り付けたと考えられる。また、柵状施設の粘土材は砂粒が多く、砂粒の少ない窓材の粘土との違いが明確である。

柵状施設土層解説

- | | | | |
|---------|-------------|-------|-----------------|
| 1 にぶい褐色 | 燒土粒子・粘土粒子少量 | 2 黒褐色 | 粘土粒子中量、燒土ブロック微量 |
|---------|-------------|-------|-----------------|

ビット 7か所検出された。P1～P4は深さ40～53cmで、P1・P3・P4の底面には柱材のあたりが確認され、主柱穴と考えられる。P5は、深さ23cmほどで、配置から出入り口施設に伴うビットと考えられる。P6・P7は、17cm～41cmであるが、性格は不明である。

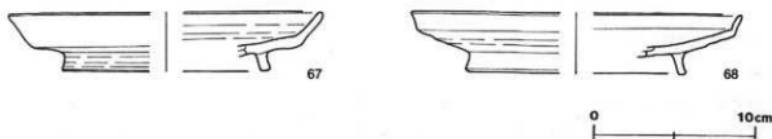
覆土 16層からなる。レンズ状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

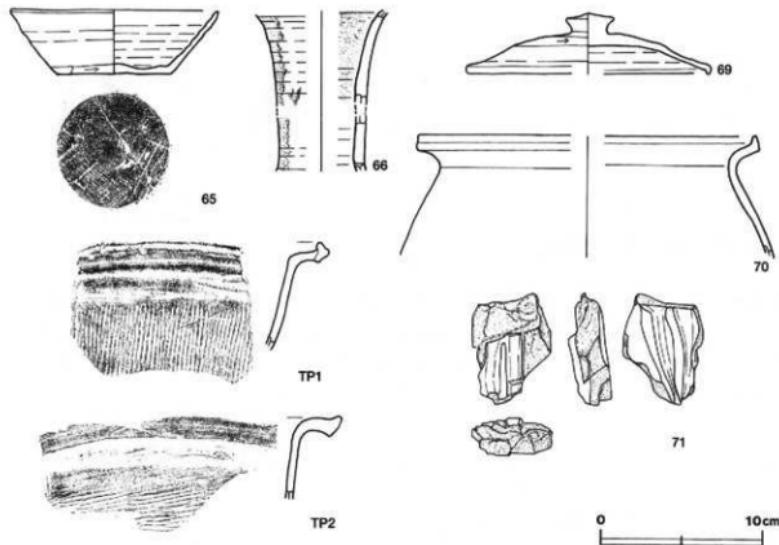
1 黒褐色	ローム粒子・燒土粒子少量、粘土粒子・砂粒微量	10 暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量
2 暗赤褐色	ローム粒子・粘土粒子・燒土粒子少量、炭化物微量	11 暗褐色	燒土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
3 暗褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・粘土粒子・砂粒微量	12 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量
4 黑褐色	ローム粒子中量、燒土粒子少量、炭化物・粘土粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
5 暗褐色	ローム粒子中量、燒土ブロック・炭化物微量	14 喬色	ローム粒子中量
6 黑褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・粘土粒子・砂粒少量	15 黑褐色	炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子少量、燒土ブロック・炭化物微量	16 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
8 暗赤褐色	ローム粒子・燒土粒子中量、粘土粒子少量、炭化物微量		
9 暗褐色	ローム粒子中量、燒土ブロック・炭化物微量		

遺物出土状況 土師器片459点（环類72、甕類387）、須恵器片245点（环類151、甕類56、蓋38）、灰陶器片4点、瓦塔1点の他に、混入したと考えられる繩文土器片3点が出土している。65は窓右側の柵状施設から出土しており、柵状施設の使用状況の一端を示している。70は窓の火床面から出土している。また、66（井ヶ谷78号窯式）は他地域からの搬入品である。出土土器数は多いが、そのほとんどが碎片であり、接合資料や時期の決定につながる床からの出土が少なく、ほとんどが埋め戻しの段階で投棄されたものと考えられる。

所見 埋め戻しの時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられ、その時期に埋め戻されたと考えられる。また、瓦塔の屋根部片が混入しており、周辺部に村落内寺院の存在を想定することができる。



第117図 第12号住居跡出土遺物実測図(1)



第118図 第12号住居跡出土遺物実測図(2)

第12号住居跡出土遺物観察表（第117・118図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	断土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
65	須恵器	环	12.8	3.9	7.1	長石・石英・雲母	灰	良好	底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り、 棒状下端手持ちヘラ削り	層上	90% PL37
66	灰釉陶器	長甕壺	-	[10.0]	-	長石・石英	明赤褐	良好	長甕壺内・外面クロナゲ	覆土下層	5% PL37
67	須恵器	盤	[19.2]	3.6	[12.8]	長石・石英	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台削り付け	覆土下層	30%
68	須恵器	盤	[20.3]	3.7	[13.1]	長石・石英	黄灰	良好	底部回転ヘラ切り後高台削り付け	覆土下層	30%
69	須恵器	蓋	[15.1]	3.7	-	長石・石英・纏	灰	普通	天井部右回りのヘラ削り	覆土下層	40%
70	土器	甕	[21.0]	(7.5)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口沿部内・外面横ナデ	竪火床面	10%
TP1	須恵器	鉢	-	[6.7]	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	全体外縁の平行叩き	覆土下層	10%
TP2	須恵器	鉢	-	[5.1]	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	全体外縁横の平行叩き	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	色調	特徴	出土位置	備考
71	瓦場	(6.8)	(4.9)	2.8	(51.2)	須恵器	灰黄	屋蓋部辺、半蔵竹筒状工具により丸瓦表現	覆土中	5% PL39

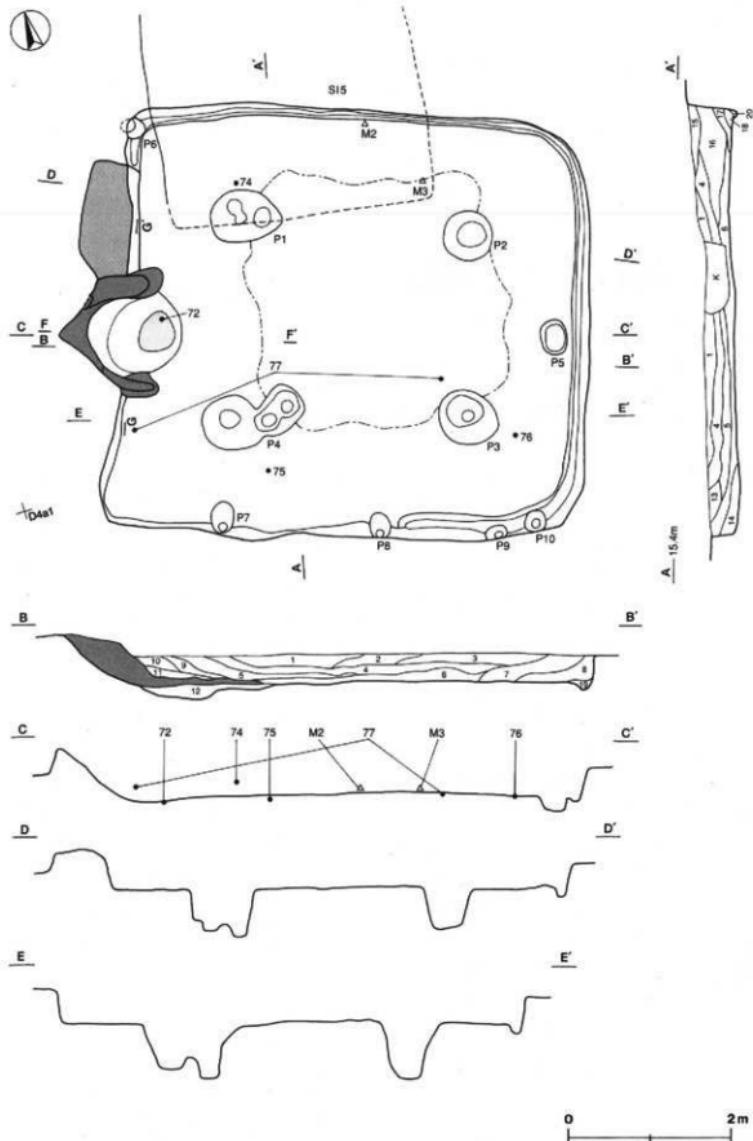
第13号住居跡（第119～121図）

位置 調査区南東部のC 4 j1区に位置し、台地からの緩やかな南東斜面部に立地している。

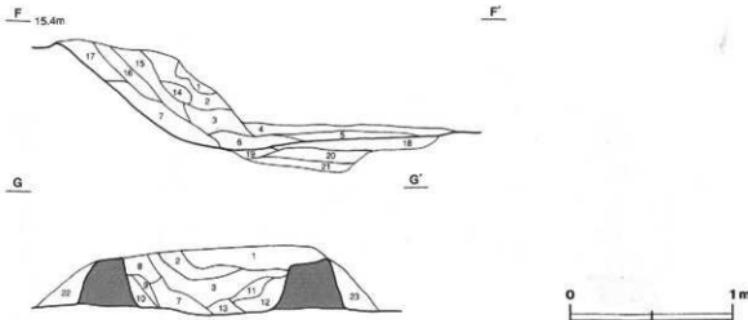
重複関係 北側壁の一部を第5号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.80m、短軸5.30mほどの方形で、主軸方向はN-74°-Wである。壁高は27～54cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。また、窓の右側に砂質粘土を貼った棚状施設を有している。

床 床はほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。壁溝は、南西コーナー部以外で確認できた。



第119図 第13号住居跡実測図(1)



第120図 第13号住居跡実測図(2)

竈 西壁中央部に付設されており、焚き口から煙道部までは150cmほどである。袖部幅は160cmほどで、床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床面は、袖部と同様の地山面を7cmほど凹状に掘りくぼめて使用しており、被熱のため赤変している。

竈層解説

1 黒褐色	燒土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	12 にぶい赤褐色	燒土粒子・粘土粒子・砂粒多量、炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック・燒土ブロック・粘土粒子・砂粒微量	13 灰赤色	灰粘土多量、燒土粒子中量、粘土粒子・砂粒少量
3 黒褐色	燒土ブロック・炭化物微量	14 灰褐色	粘土粒子・砂粒中量、燒土粒子少量、炭化物微量
4 黒褐色	粘土粒子・砂粒多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	15 にぶい黄褐色	燒土粒子・砂粒多量、燒土粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物・粘土粒子・砂粒微量	16 にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量、燒土粒子中量
6 暗赤褐色	粘土粒子・砂粒多量、燒土ブロック中量	17 暗赤褐色	粘土粒子・砂粒多量、燒土ブロック中量
7 暗赤褐色	燒土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量	18 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
8 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒中量、燒土ブロック微量	19 暗赤褐色	燒土ブロック多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
9 にぶい赤褐色	燒土ブロック中量、ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量	20 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、燒土ブロック・炭化物微量
10 にぶい赤褐色	燒土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、炭化物微量	21 暗赤褐色	ロームブロック・燒土ブロック中量、粘土粒子・砂粒微量
11 灰褐色	粘土粒子・砂粒中量、燒土ブロック	22 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量、燒土ブロック・炭化物微量

棚状施設 窓の右側に設けられており、奥行60cm前後、幅140cm前後の長方形で、床面から65cmほどの高さで確認することができた。棚状施設の構築状況は、住居の掘り込み後に棚状施設部分を掘り込んで砂質粘土を貼り付けた後、質の異なる砂質粘土を壁全体と棚に貼り付けたと考えられる。また、棚状施設の粘土材は砂粒が多く、砂粒の少ない竈材の粘土との違いが明確である。

ピット 10か所検出された。P1～P4は深さ49～72cmで、いずれも底面に硬化面が確認され、主柱穴と考えられる。また、これらには作り替えが認められ、それぞれに硬化面が確認された。P5は、深さ17cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P10は性格は不明である。

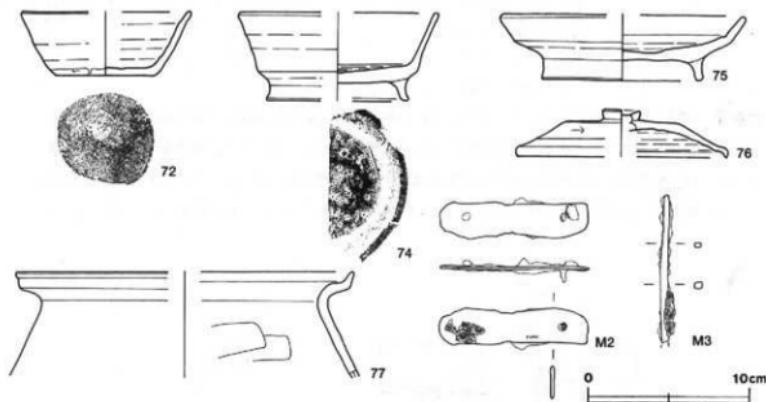
覆土 20層からなる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化物・粘土ブロック・粘土粒子・砂粒微量	10 暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	11 暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、粘土ブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	12 棕暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック・粘土粒子・砂粒微量	13 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子・砂粒微量	14 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
6 黑褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	15 黑褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量
7 褐色	ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量	16 棕暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量	17 黑褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
9 褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量	18 暗褐色	ロームブロック少量
10 褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量	19 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
11 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量	20 褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片731点（坏類84、甕類647）、須恵器片279点（坏類226、甕類20、蓋33）、灰釉陶器片1点、鉄製品4点（刀子2、手鎌1、鉄釘1）の他に、流れ込みと考えられる縄文土器片28点が出土している。72は竈の火床面から、75はP3付近の床からそれぞれ出土している。M2・M3はいずれも北壁中央部の床から出土している。出土土器数が多いが、そのほとんどが碎片であり、接合資料や時期の決定につながる床からの出土が少なく、ほとんどが埋め戻しの段階で投棄されたものと考えられる。

所見 本跡の時期を明確に決定づける遺物は少ないが、出土土器から9世紀前葉と考えられる。また、第12号住居跡と規模や形状がきわめて類似している。



第121図 第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表（第121図）

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
72	須恵器	环	[10.4]	3.9	6.2	長石・石英	黄灰	普通	底部斜削ヘラ削り後、延多方角のヘラ削り、 底部下端手持ぐら削り	竈火床面	50%
74	須恵器	高台付环	[12.2]	5.4	[8.8]	長石・石英	灰	普通	底部斜削ヘラ削り後高台貼り付け、 底部外周一部自然崩	覆土下層	45%
75	須恵器	盤	[18.0]	4.0	10.1	長石・石英・雲母	灰	普通	底部斜削ヘラ削り後高台貼り付け	床面	55% PL40
76	須恵器	蓋	-	2.9	[13.2]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部右彎りのヘラ削り	床面	20%
77	土師器	甕	[20.8]	(6.4)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	体部内面ヘラナデ	覆土下層	15%

番号	器種	大きさ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	手鎌	9.3	2.1	0.2	10.3	鉄	研ぎにより刃部摩耗	床面	PL40
M3	鉄鎌	(9.1)	0.5	0.4	(10.3)	鉄	裏面は長方形の棒状	床面	PL40

第14号住居跡（第122・123図）

位置 調査区南東部のC3II区に位置し、台地からの緩やかな南東斜面部の最下部に立地している。

規模と形状 南側は調査区域外へ延びているため全体は確認できないが、東西4.00m、南北3.46mほどが確認された。平面形は、方形または長方形と推定され、主軸方向はN-26°-Eである。確認された壁高は60cmほど、

壁は外傾して立ち上がっている。また、竈の両側に砂質粘土を貼った棚状施設を有している。

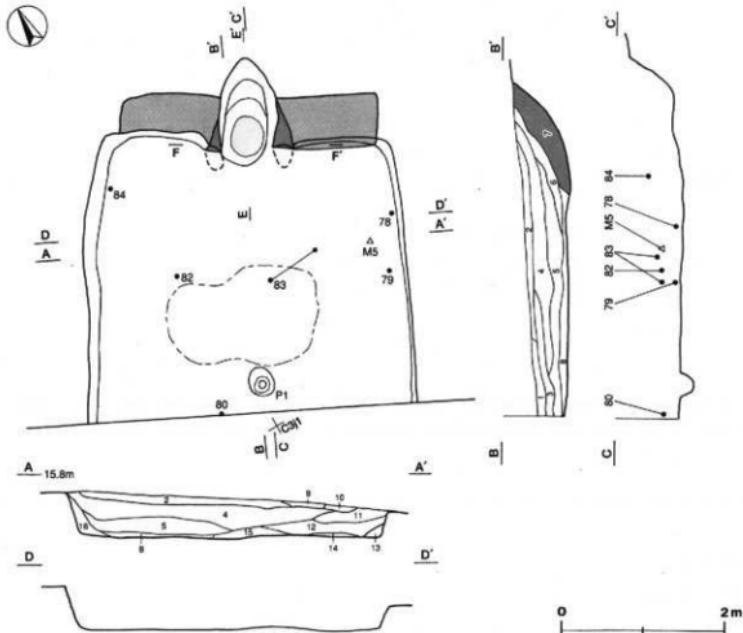
床 床はほぼ平坦で、特に出入り口施設に伴うピット付近から床中央部が硬化している。壁溝は確認されなかった。

窓 北壁の中央部に付設されており、焚き口から煙道部までは138cmほどである。袖部は遺存していないが、床面に砂質粘土のブロックがわずかに確認されたことから、袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されていたと想定される。火床面は、床面と同じ高さの地山面を使用しており、被熱のため赤変しているが硬化はしていない。壁外への掘り込みは100cmほどで、煙道は火床部から外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗赤褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量	7	黒赤褐色	粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化物微量	8	黒褐色	粘土粒子・粘土粒子・砂粒微量
3	灰褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック少量	9	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子・炭化物微量
4	黒褐色	粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量	10	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック微量
5	にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量	11	にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量
6	黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量	12	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少少、炭化物微量

棚状施設 北壁中央部の竈を中心として左右に設けられており、奥行55cm前後、幅150cm前後の長方形である。左右ともほぼ同じ大きさで、床面から60cmほどの高さで確認することができた。棚状施設の構築状況は、住居の掘り込み後に棚状施設部分を掘り込み、竈構築後に壁全体と棚の掘り込み部分に砂質粘土を貼り付けたと考えられる。竈部分には袖部の粘土材が遺存していないが、竈土層の粘土材と棚状施設の粘土材には違いが無い。



第122図 第14号住居跡実測図

ピット 1か所検出された。P1は深さ18cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。柱穴の配列や位置を想定して床面や遺構の外側を精査したが確認できなかった。

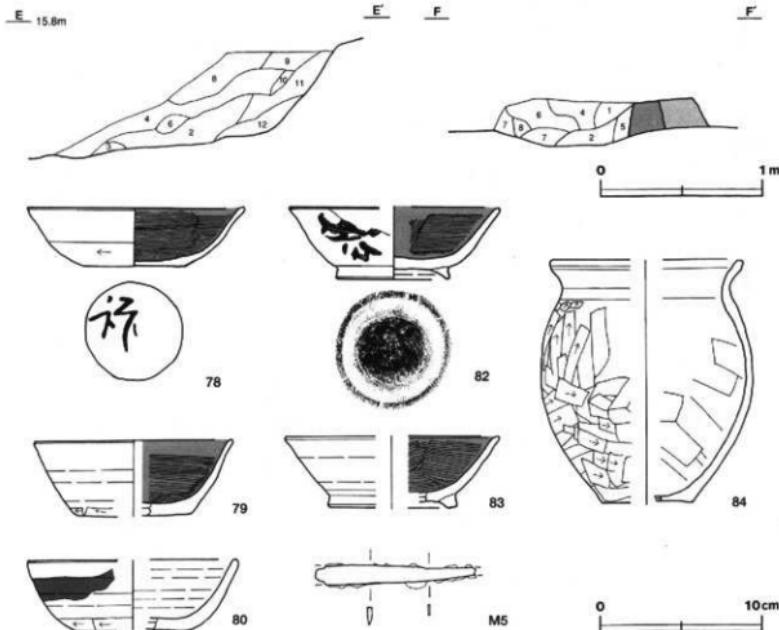
覆土 16層からなる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量
5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化物微量
6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	14 褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色	粘土粒子・砂粒少量・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	15 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	16 暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片518点(坏類119, 壺類399), 須恵器片276点(坏類155, 壺類118, 盖3), 鉄製品2点(刀子)の他に、流れ込みと考えられる繩文土器片19点、石器2点(剥片)が出土している。78は東壁のやや北寄りの覆土下層から出土しており、底部外面に「祢」カと墨書きされている。82は床中央部のやや北西寄りの覆土下層から出土しており、体部外面に墨書きが認められるが判読できない。79・M5は東壁の中央部、84は北西コーナーの覆土中層からそれぞれ出土している。出土土器数は多いが、そのほとんどが碎片であり、埋没の段階で投棄されたものと考えられる。

所見 本跡の時期決定につながる床からの出土が少ないが、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第123図 第14号住居跡・出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表（第122・123図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
78	土師器	坪	[122]	5.4	[8.8]	長石・石英・赤色粒子	にほい・褐	普通	底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り、 体部下層回転ヘラ削り	覆土下層	95%斜毛・丸形
79	土師器	坪	12.4	4.7	[7.0]	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	底部回転ヘラ切り後、方向のヘラ削り、 体部下層回転ヘラ削り	覆土下層	45%
80	土師器	坪	[120]	4.4	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	にほい・赤褐色	普通	底部回転ヘラ切り後、方向のヘラ削り、 体部下層回転ヘラ削り、内面へ引剥き	覆土下層	50%斜毛・丸形
82	土師器	高台付坪	[130]	4.4	6.8	長石・石英・赤色粒子	にほい・赤褐色	普通	底部回転ヘラ切り後、方向のヘラ削り、 内面へ引剥き	覆土下層	65%斜毛・口
83	土師器	高台付坪	[132]	4.4	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	底部回転ヘラ切り後白脂刷付け、 内面へ引剥き	覆土下層	40%
84	土師器	小野型	[117]	14.9	[5.5]	長石・石英・赤色粒子	赤褐色	良好	体部外側ヘラ削り、体部内面ヘラナダ	覆土中層	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M5	刀子	(9.0)	1.3	0.3	(11.7)	鉄	刀身・茎部の一部、切先・茎尻欠損	覆土下層	PL40

第15号住居跡（第124・125図）

位置 調査区北西部のB1 d7区に位置し、西へ緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地している。

重複関係 ほぼ全体を第16号土坑に掘り込まれている。

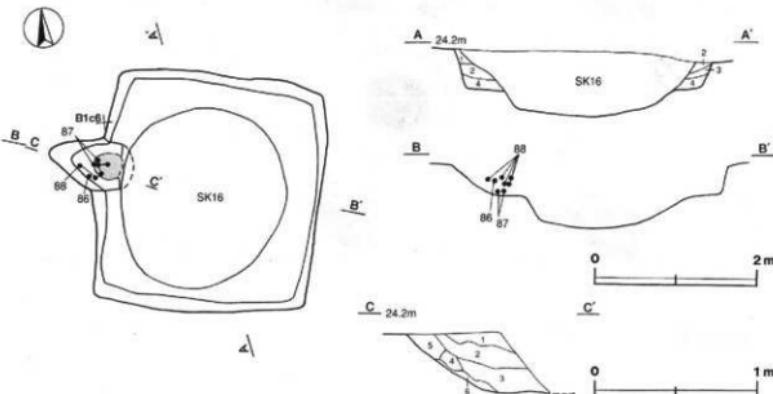
規模と形状 一辺が2.90m前後の方形で、主軸方向はN-87°-Wである。壁高は35cmほどで、各壁とも外傾して立ち上っている。

床 確認できた各壁際の床はほぼ平坦である。中央の大部分が第16号土坑に掘り込まれているため、硬化面の確認はできなかった。また、壁溝も確認することはできなかった。

窓 西壁の中央部に付設されている。第16号土坑に掘り込まれているため焼き口は確認されず、袖部も遺存していない。火床面はわずかに残り、床面と同じ高さの地表面を使用しており、被熱のため赤変硬化している。壁外への掘り込みは60cmほどで、煙道は火床部から外傾して緩やかに立ち上っている。

竪土層解説

1	褐	色	ローム粒子中量	燒土粒子微量	4	にほい赤褐色	燒土ブロック中量	ローム粒子微量
2	褐	色	ローム粒子中量	燒土ブロック・粘土粒子・砂粒	5	にほい赤褐色	燒土ブロック少量	ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量
3	にほい赤褐色	燒土ブロック少量	ローム粒子・粘土粒子・砂粒	微量	6	黒	褐色	燒土ブロック微量



第124図 第15号住居跡実測図

ピット 確認できなかった。

覆土 4層からなる。ほとんどが第16号土坑に掘り込まれているが、自然堆積と考えられる。

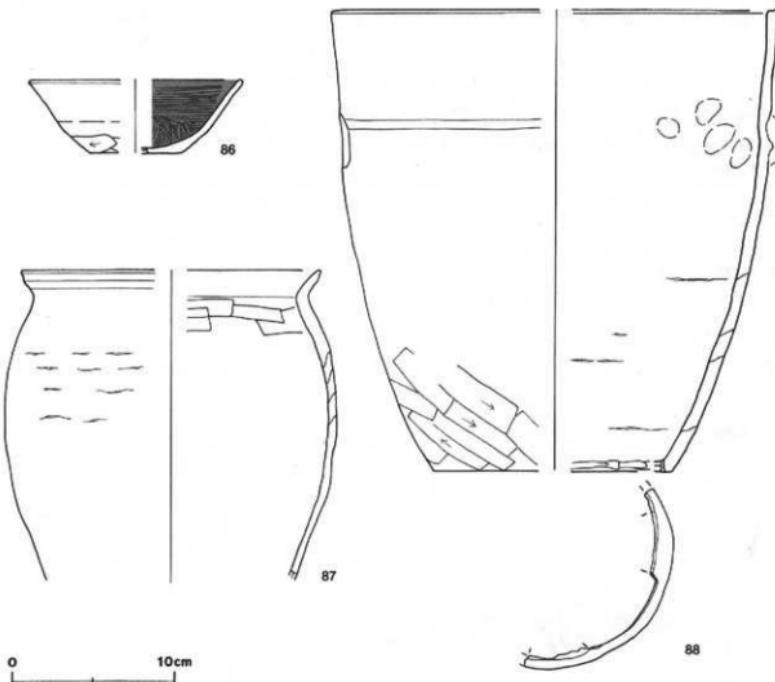
土層解説

1 暗色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

3 暗色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
4 暗色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片52点（壺類19、甕類33）、須恵器片7点（壺類1、甕類2、蓋4）が出土している。86は竈内の左奥、87は竈の火床部からそれぞれ出土している。また、88は竈の火床部から煙道部にかけて出土している。

所見 本跡は、竈を除くほとんどの部分が第16号土坑に掘り込まれているが、時期は、竈内出土の土器から9世紀中葉と考えられる。



第125図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表（第125図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
86	土師器	壺	[12.8]	4.5	[5.6]	粘土系2層+褐色子	褐	普通	底部斜面削り落し後、方向のへラ削り、全体手手持ちへラ削り、内面へラ削り	竈覆土中層	25%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
87	土器	甕	[18.5]	[18.0]	—	良石・石英・赤色	褐	普通	体部外側へラブリ、内面へラナゲ、輪縁み痕	竪火床部	20%
88	須恵器	瓶	[27.8]	28.2	[14.8]	良石・石英・雲母	灰白	普通	体部外側下端へウレリ、把手剥離痕、内面へラナゲ、輪縁み痕	竪火中層	45%

第16号住居跡（第126・127図）

位置 調査区南東部のC 3 g6区に位置し、台地からの緩やかな南東斜面部に立地している。

規模と形状 耕作による削平を激しく受けているため、東西2.90m、南北0.35mほどが確認され、方形もしくは長方形と推定され、主軸方向はN-15°-Eである。確認された壁高は10~25cmほどで、外傾して立ち上がっている。また、確認面では住居外への砂質粘土の散らばりは検出されなかったが、竪の両側の壁に砂質粘土が貼り付けられており、棚状施設を有する可能性が考えられる。

床 耕作機械による擾乱を激しく受けしており、遺存する床はほぼ平坦であるが、硬化面や壁溝などは確認することができなかった。

竪 北壁は完全に確認されていないが、遺存した壁との位置から判断して、北東壁の中央部に付設されていたと推定され、焚き口から煙道部までは112cmほどである。袖部幅は117cmほどで、床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床面は、袖部と同様の地山面を使用しており、被熱のため赤変している。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子・砂粒微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 5 褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量 |
| 3 紅褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック、炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 |

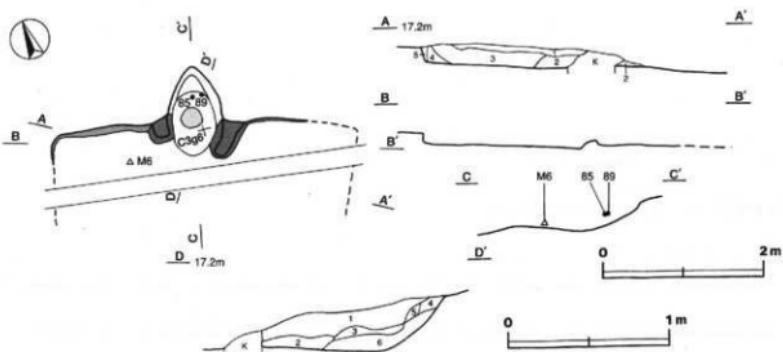
棚状施設 北側壁に砂質粘土が貼り付けられており、竪の左右に棚状施設を有する可能性が考えられる。しかし、確認面では粘土の広がりを検出できなかったので平面形については不明である。

ピット 確認できなかった。

覆土 5層からなる。ロームブロックや焼土粒子、炭化粒子を含んだブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

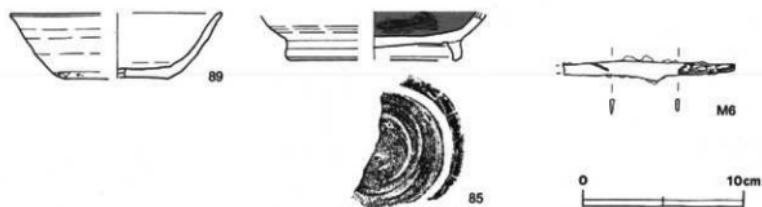
- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・粘土ブロック少量、炭化物・粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量 | | |



第126図 第16号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片95点（环類32、甕類63）、須恵器片23点（环類19、甕類4）、土製品片9点（支脚）、鉄製品1点（刀子）が出土している。85・89は甕内の奥、M6は甕左前の床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、耕作による削平が激しいため確認できた覆土はわずかであり、時期を判定する遺物が少ないので、出土土器から9世紀後半と考えられる。



第127図 第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
89	土師器	环	[13.2]	4.1	[6.4]	長石・雲母・赤色粒子	において黄褐色	普通	底部周辺へラ切り後一方に向かって2削り、底部下部手持り部分に内曲摩溝等不明	電梯造部	30%
85	土師器	高台付环	-	(3.0)	[10.3]	石英・長石・赤色粒子	浅黄褐色	普通	底部削除へラ切り後高台貼り付け	電梯造部	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M6	刀子	(10.7)	1.2	0.2	(13.5)	鉄	刀身・茎部の一部、切先・茎尻欠損	床面	PL40

表9 積穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁厚 (cm)	床面	壁構 上北丸人丁ビット	覆土	主な出土遺物	備考 (時期)	新旧関係 (旧→新)	
1	C 3 f2	N-88°W	長方形	3.58×3.06	38	平坦	全周	-	1 - 1 - 人馬	土師器、須恵器	9世紀前葉	
2	C 3 g4	N-15°E	方形	5.23×5.22	5~41	平坦	基	4	1 - 1 - 人馬	土師器、須恵器、支輪	8世紀中葉	
3	C 3 h5	N-23°E	長方形	3.47×3.27	19~19	平坦	-	-	- 1 1 1	自然	土師器、須恵器	
4	C 3 h6	N-22°E	[方形]	[3.05]×2.98	18	平坦	-	-	- 1 - 人馬	土師器、須恵器	9世紀後半	
5	C 4 i2	N-7°E	[長方形]	[3.30]×[2.60]	15	平坦	-	-	- 1 - 不明	土師器、須恵器	9世紀後半	
6	C 3 j5	N-15°E	方形	3.66×3.58	42~65	平坦	-	2 1 2 -	人馬	土師器、須恵器、帶金具	9世紀前葉	
7	C 2 e0	N-10°E	[方形-長方形]	[2.80]×[2.40]	5~13	平坦	-	- 2 -	2 -	不明	土師器、須恵器	9世紀前半
8	C 3 i9	N-23°E	長方形	4.20×3.65	10~30	平坦	基	-	- 1 -	自然	土師器、須恵器	9世紀中葉
9	C 3 i4	N-73°W	方形	3.85×3.72	27~70	平坦	全周	4	- 6 1 -	人馬	土師器、須恵器、支輪	9世紀前葉
10	C 3 d5	N-82°W	[方形-長方形]	[3.28]×[2.40]	6~12	平坦	-	-	- 1 1	自然	土師器、須恵器	9世紀前半
11	D 3 a4	N-68°W	[方形-長方形]	3.76×(2.20)	57	平坦	-	2 -	1 1 -	自然	土師器、須恵器	9世紀前葉
12	C 3 j0	N-72°W	方形	5.83×5.39	18~45	平坦	全周	4	1 2 1 -	人馬	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦塔、瓦	9世紀前葉
13	C 4 j1	N-74°W	方形	5.80×5.30	27~34	平坦	- 基	4 1 5 1 -	自然	土師器、須恵器、刀子、鍬	9世紀前葉	
14	C 3 l1	N-26°E	[方形-長方形]	4.00×(3.46)	39~55	平坦	-	- 1 -	1 -	自然	土師器、須恵器、刀子	9世紀後葉
15	B 1 d7	N-87°W	方形	2.96×2.75	35	平坦	-	-	- 1 -	自然	土師器、須恵器	9世紀後葉
16	C 3 g6	N-15°E	[長方形]	[2.90]×[0.35]	10~25	平坦	-	-	- 1 -	人馬	土師器、須恵器、支輪、刀子	9世紀後半

(2) 火葬墓

第1号火葬墓 (第128・129図)

位置 調査区北西部のB1a6区に位置し、台地の縁辺部に立地している。

規模と形状 一辺が75cmほどの隅丸方形で、底面までの深さは15cmほどである。壁はいずれも外傾しながら立ち上がっており、底面は平坦である。

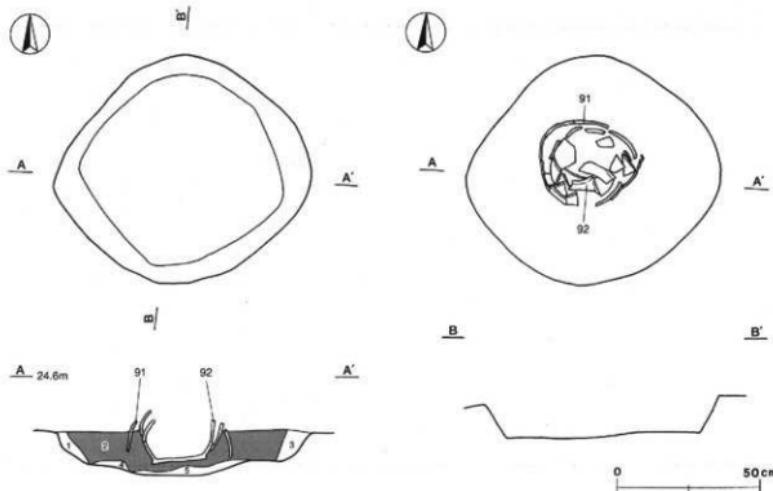
覆土 5層からなり、骨蔵器の周りに木炭が多量に詰め込まれている。

土層解説

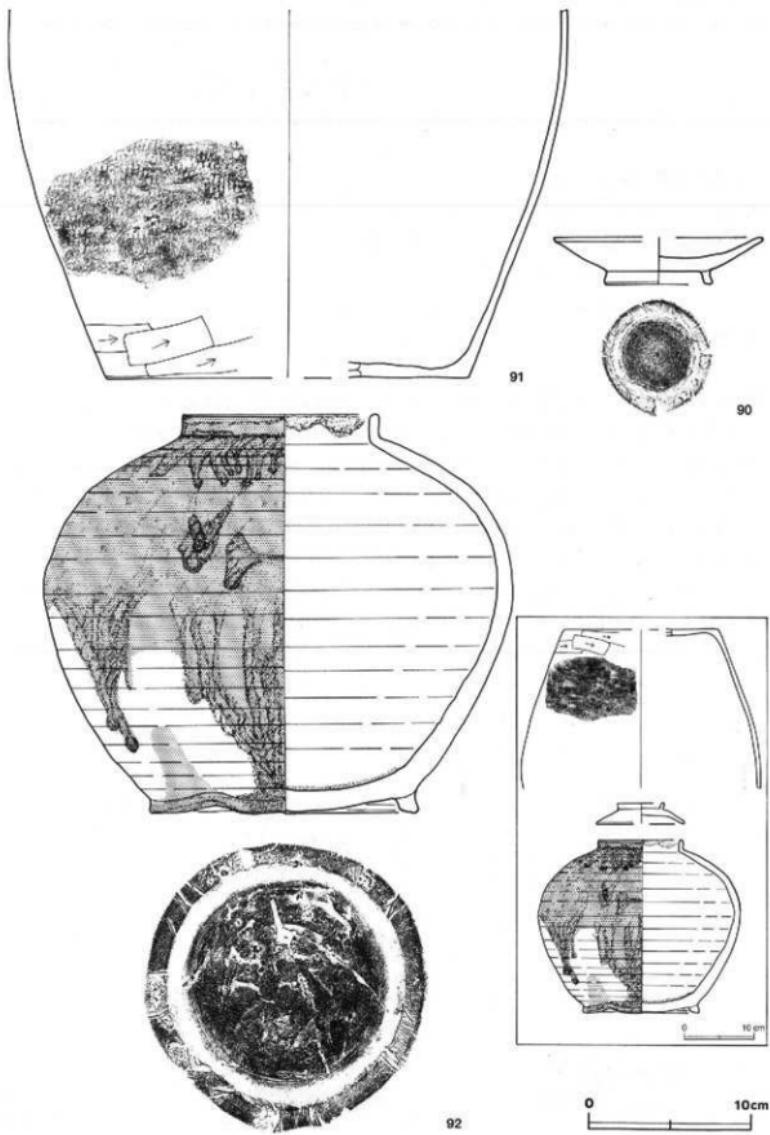
1 黄色 ローム粒子・炭化粒子少量	4 褐褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
2 黒褐色 炭化物極めて多量、ローム粒子微量	5 黒褐色 炭化物中量、ローム粒子少量
3 明褐色 ローム粒子中量、炭化物少量	

遺物出土状況 土師器1点(高台付皿)、須恵器1点(鉢)、灰釉陶器1点(短頸壺)が出土している。火葬骨が納められた92の短頸壺(狼投産黒釜90号窯式)は正位の状態で出土しているが、土圧で破損していたと思われ、内部に土が流れ込んだり根があり込んだりして火葬骨の大部分は失われていた。骨蔵器(短頸壺)の蓋として使われていた90の高台付皿は、口縁部が破損した状態で骨蔵器内から出土している。また、91の鉢は底部を欠損しているものの逆位の状態で骨蔵器に被せた状態で出土した。骨蔵器の中からは多少の骨片と骨粉が確認されているが、各部位を確認することはできなかった。

所見 当骨蔵器は、土坑を掘り込んで埋納されている。埋納法は、掘り込んだ土坑に木炭を入れ、次に納骨した短頸壺を置いて高台付皿で蓋をしてから全体に木炭を加え、口縁部を打ち欠いた鉢を被せたものと考えられる。本来、埋納用の土坑の深さは30cm以上と考えられ、木炭を入れた後に土を被せたと想定される。時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第128図 第1号火葬墓実測図



第129図 第1号火葬墓出土遺物実測図

第1号火葬墓（第10号土坑）出土遺物観察表（第129図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
90	土師器	高台付皿	[12.8]	2.9	6.6	灰白	にぶい黄褐色	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	骨蔵器内	70% PL38
91	須恵器	鉢	-	[23.1]	[22.4]	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け、外縁中位弱位の打ち欠き、口縁部に凹凸状の目立つ凹部、輪錐み板	骨蔵器上	40% PL38
92	灰釉陶器	短頸壺	11.9	24.8	16.4	長石・石英	灰白	良好	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け、底部内面強烈による自然剥離	炭化物上	80% PL38

第2号火葬墓（第130・131図）

位置 調査区西北部のB1a4区に位置し、台地の縁辺部に立地している。

規模と形状 一辺が50cmほどの隅丸方形で、底面までの深さは18cmほどである。縁はいずれも外傾しながら立ち上がっており、底面は平坦である。

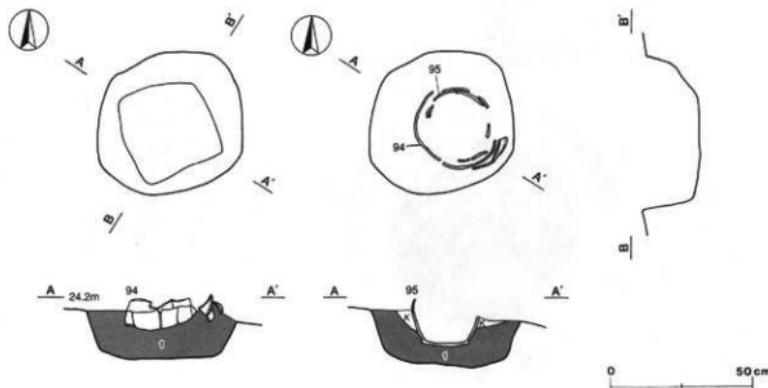
覆土 1層からなり、骨蔵器の周りに木炭が多量に詰め込まれている。

土層解説

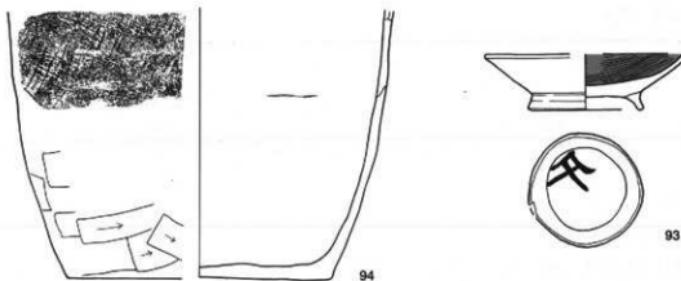
1 黒褐色 炭化物極めて多量、ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器1点（高台付皿）、須恵器1点（鉢）、灰釉陶器1点（長頸壺）が出土している。火葬骨が納められた95の長頸壺（猿投産黒瓦14号窯式）は正位の状態で出土しているが、以前から土圧などによって破損し、内部には大量の土が流れ込んでおり、少量の骨粉が確認されただけである。骨蔵器（長頸壺）の蓋として使われていた93の高台付皿は、口縁部が破損した状態で骨蔵器内から出土しており、底部外面に「父」と思われる墨書きがある。94の鉢は底部を欠損しているものの逆位の状態で骨蔵器に被せられた状態で出土した。骨蔵器の中からは骨粉が確認されているのみで、各部位を確認することはできなかった。

所見 当骨蔵器は、土坑を掘り込んで埋納されている。埋納法は、掘り込んだ土坑に木炭を入れ、次に納骨した長頸壺を置いて高台付皿で蓋をしてから全体に木炭を加え、口縁部を打ち欠いた鉢を被せたものと考えられる。また、長頸壺の頸部は、埋納の段階で打ち欠かれていたと考えられる。本来、埋納用の土坑の深さは30cm以上と考えられ、木炭を入れた後に土を被せたと想定される。時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

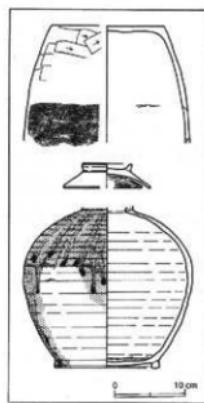
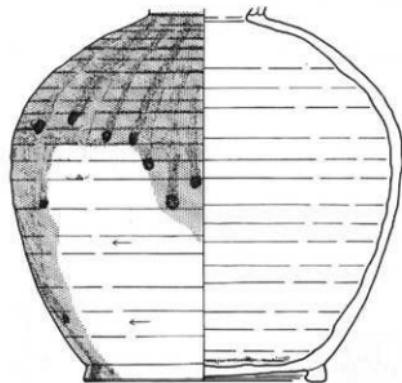


第130図 第2号火葬墓実測図



94

93



95

0 10cm



0 10cm

第131図 第2号火葬墓出土遺物実測表

第2号火葬墓（第11号土坑）出土遺物観察表（第131図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
93	土師器	高台付皿	[124]	3.4	7.0	長石・石英・赤色粘土	にぶい蘭	普通	底面凹凸へラ切り後高台周り付け、内面へラ磨き	骨蔵器内	60%剥離失却
94	須恵器	鉢	-	(16.6)	[16.2]	長石・石英	明赤蘭	普通	底面外周下端へラ切り、外面中位格子目の叩き、輪消み板、指痕板	骨蔵器上	15%剥離失却
95	灰釉陶器	長断頭	-	(23.2)	14.7	長石	灰	良好	底面凹凸へラ切り後高台周り付け、底部内面剥離による自然縁	灰化物上	60%剥離失却

表10 火葬墓一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模 (m) (長径×短径)	深 さ (cm)	壁 面	底 面	覆 土	出 土 遺 物	備 考
1	B 1 a6	—	圓 丸 方 形	0.79×0.74	15	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器、灰軸陶器	新旧関係 (旧→新)
2	B 1 a4	—	圓 丸 方 形	0.48×0.33	18	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器、灰軸陶器	

(3) 土坑

第19号土坑（第132図）

位置 調査区南東部のC 3 j6区に位置している。

重複関係 南西側の一部が第6号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径が1.20mほどの円形で、深さは30cmほどである。壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 3層からなり、レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

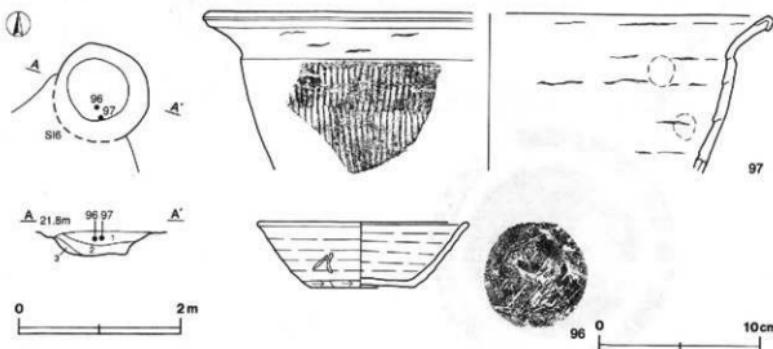
1 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量

2 暗褐色 ローム粒子微量

3 海 色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量

遺物出土状況 土師器片9点（坏類3、甕類6）、須恵器片8点（坏類4、甕類4）が出土している。96は体部外面に「八」と思われるヘラ記号がある。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



第132図 第19号土坑・出土遺物実測図

第19号土坑出土遺物観察表（第132図）

番号	種 別	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	色 調	燒 成	手 法 の 特 徴	出 土 位 置	備 考
96	須恵器	坏	12.8	4.1	6.4	東石石英・雲母・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	底面回転ヘラ切り後一方角のヘラ削り、 体部下端半持ちヘラ削り	覆土上層	80%ヘラ削り(八) PL37-38
97	須恵器	甕	[34.8]	[9.7]	—	長石・雲母	黄褐色	普通	体部外表面底の平行削き、剖面削、 始掠み削	覆土上層	5%

3 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期及び性格の判断が困難な方形堅穴遺構2基、溝跡3条、土坑10基が確認されている。

以下、検出された遺構などについて記載する。

(1) 方形堅穴遺構

第1号方形堅穴遺構（第133図）

位置 調査区北西部のA 1a4区に位置し、西へ緩やかに傾斜した台地縁辺部に立地している。

規模と形状 長径1.73m、短径1.15mの長方形で、深さは32cmほどである。主軸方向はN-81°-Wで、西壁は緩やかに外傾しており、東壁はほぼ直立している。底面はほぼ平坦であるが、東側へ緩やかに傾斜している。

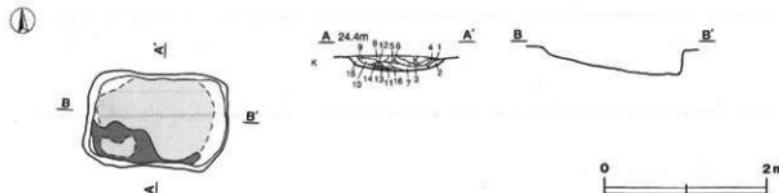
覆土 16層からなる。焼土粒子や炭化粒子を含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	褐	色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	9	黒	褐	色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
2	暗	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	10	にぶい赤褐色	色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
3	褐	色	焼土粒子中量、炭化粒子少量	11	褐	色	炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量	
4	にぶい赤褐色	色	焼土粒子多量、炭化粒子少量	12	黒	褐	色	炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
5	にぶい赤褐色	色	焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量	13	黒	色	炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量	
6	黒	褐	色	焼土粒子・炭化粒子少量	14	黒	色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
7	黒	色	炭化粒子中量、焼土粒子少量、ロームブロック 数量	15	暗	褐	色	焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量
8	褐	色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	16	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	

遺物出土状況 出土していないが、遺構全体に焼土が散らばっており、南西コーナー部には炭化物が集中していた。

所見 検出された焼土や炭化物などから何らかの焼成遺構と考えられるが、出土遺物が伴わないことから時期及び性格は不明である。



第133図 第1号方形堅穴遺構実測図

第2号方形堅穴遺構（第134図）

位置 調査区北西部のB 1a4区に位置し、西へ緩やかに傾斜した台地縁辺部に立地している。

重複関係 南東コーナー壁を第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.50m、短径1.35mの長方形で、深さは62cmほどである。主軸方向はN-49°-Wで、西壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

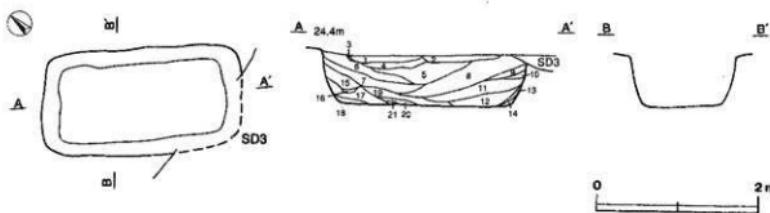
覆土 21層からなる。ロームブロックや焼土粒子を含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量	12	褐色	炭化物多量、ローム粒子・焼土粒子微量
2	暗褐色	炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量	13	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量	14	にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子微量
4	褐色	炭化物多量、ローム粒子・焼土ブロック微量	15	暗褐色	炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子少量
5	褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	16	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
6	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	17	褐色	炭化粒子中量、焼土粒子少量、ロームブロック微量
7	褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	18	にぶい赤褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
8	褐色	炭化物多量、ロームブロック・焼土ブロック微量	19	褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
9	褐色	炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量	20	褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量
10	褐色	炭化物多量、ロームブロック・焼土粒子微量	21	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
11	褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量			

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物が伴わないことから時期及び性格は不明である。



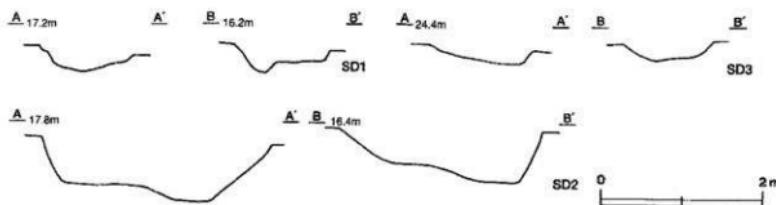
第134図 第2号方形堅穴造構実測図

表11 方形堅穴造構一覧表

番号	位 置	長径方向	平 岩 形	規 構 (m) (長径×短辯)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	出上遺物	調 査 期 間 (時→前)
1	A 14t	N-81°W	隅丸長方形	1.73×1.15	32	外傾	平坦	人為		
2	B 14t	N-40°W	隅丸長方形	2.50×1.35	62	外傾	平坦	人為		本格→SD3

(2) 溝跡 (第135・付図)

時期及び性格不明の溝跡が3条検出された。第1・2号溝跡は調査区東側の台地からの緩やかな南東斜面部で、第3号溝跡は西へ緩やかに傾斜した台地縁辺部でそれぞれ検出された。以下、実測図と一覧表で記載する。



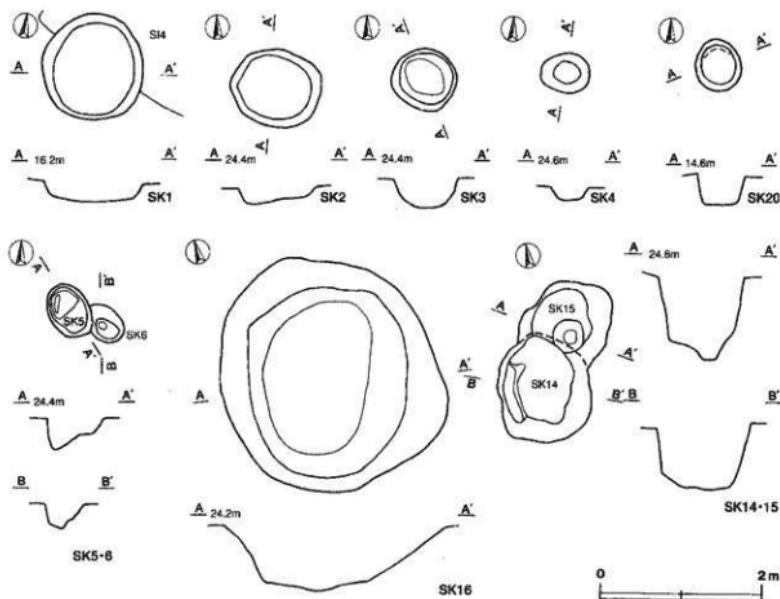
第135図 第1・2・3号溝跡実測図

表12 溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模			表面	底面	覆土	主な出土遺物	新旧関係(旧→新)
				幅延長(m)	上幅(m)	下幅(m)					
1	C 264～C 311	N-25°W	直線状	23.4	1.24～0.80	0.11～0.72	0.15～0.64	外縁	平坦	自然	土器類、須恵器
2	C 248～C 289	N-22°W	ほぼ直線状	29.6	0.98～3.09	0.32～0.36	4.2～7.1	外縁	平坦	人為	
3	B 1a3～B 1a6	N-75°E	直線状	11.6	0.84～1.34	0.22～0.91	2.2	縫斜	平坦	自然	土器類

(3) 土坑(第136図)

時期及び性格不明の土坑は10基で、ほとんどが調査区の北西部から検出された。以下、実測図と一覧表を記載する。



第136図 土坑実測図

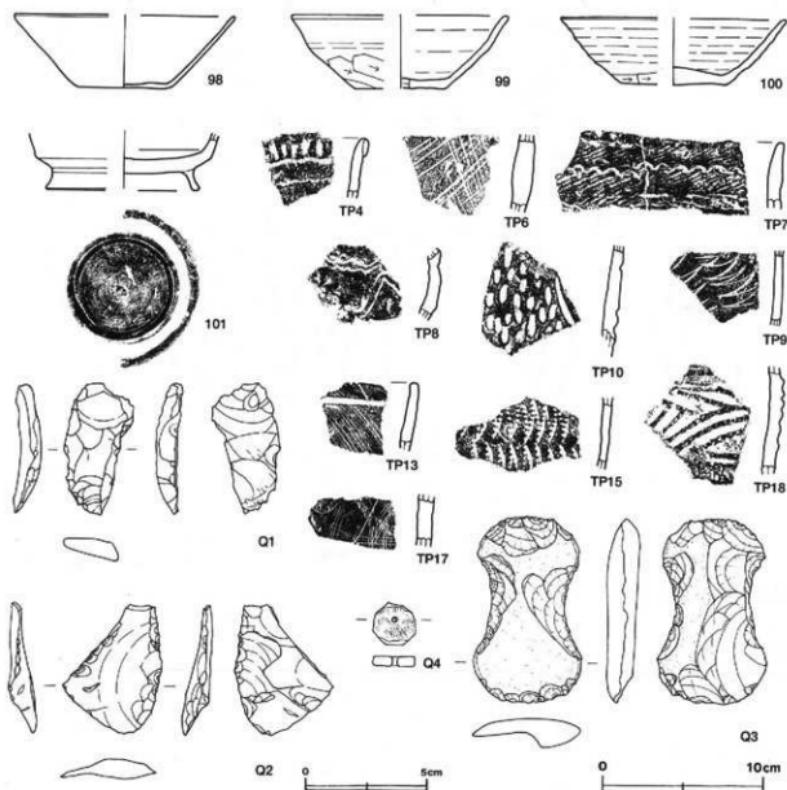
表13 土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	新旧関係(旧→新)
				(長径×短径)	幅延長(m)						
1	C 316	—	円形	1.29×1.24	26	外縁	平坦	自然		SI4→本跡	
2	B 1c6	—	円形	1.12×1.04	17	縫斜	平坦	自然	土器類		
3	B 1c6	—	円形	0.81×0.79	36	縫斜	平坦	自然			
4	B 1c8	N-87°W	複円形	0.61×0.48	13	縫斜	平坦	自然	土器類		

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m) (長径×短径)	深さ (cm)	裏面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (旧→新)
5	B 1 d0	N-30°-W	楕円形	0.70×0.49	37	継斜	V字	人為		SK6→本跡
6	B 1 d0	N-43°-W	[椭円形]	0.56×0.38	31	外傾	平坦	自然		本跡→SK5
14	B 1 b6	N-33°-E	[不整円形]	[1.30]×1.22	78	外傾	平坦	自然		SK15→本跡
15	B 1 b6	N-36°-E	[不整楕円形]	[1.17]×1.06	104	外傾	圓状	人為		本跡→SK14
16	B 1 d7	N-60°-W	不整円形	2.85×2.85	78	継斜	平坦	人為・自然	土器器、須恵器	SH15→本跡
19	C 3 j6		円形	1.20	30	外傾	平坦	自然	須恵器	SH6→本跡
20	D 3 b0	N-19°-W	楕円形	0.66×0.59	36	外傾	平坦	人為	土器器	

(4) 遺構外出土遺物 (第137図)

当遺跡での試掘、表上除去、遺構確認の段階で、遺構に伴わない遺物が出土している。以下、主な遺物について実測図及び出土遺物観察表を記載する。



第137図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第137図）

番号	種別	器種	口径	底径	高さ	断面	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
98	須恵器	环	[137]	4.5	5.6	長石・石英・雲母	黒褐	普通	準織により調整不明	C 2 区確認面	45%	
99	須恵器	环	[134]	4.5	5.4	長石・石英・雲母	暗灰青	普通	底部斜面より引く後多方位のヘラ削り、全体下端に立ち上げ削り	C 3 区確認面	30%	
100	須恵器	环	[140]	4.1	6.6	長石	灰白	普通	底部斜面より引く後、前面へヘラ削り、全体下端に立ち上げ削り	C 3 区確認面	30%	
101	須恵器	高台付环	-	(3.6)	24.4	長石・石英・雲母	暗灰青	普通	底部斜面から2段切り後全体取り付け	B 2 区確認面	40%	
TP4	漆生土器	広口壺	-	(3.7)	-	長石・石英	黄褐色	普通	底部が墨出し。口部は柄の筋節目印文	C 3 区確認面	5%中期中型	
TP6	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英	普通	普通	口部斜面下部に剥離による跡みを有する。	C 3 区確認面	3%後期面	
TP7	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	口部斜面下部に剥離による跡みを有する。	C 3 区確認面	5%中期中型 PL40	
TP8	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	底部斜面下部に剥離による跡みを有する。	C 3 区確認面	5%中期中型 PL40	
TP9	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	底部による横位の山毛文	C 3 区確認面	3%後期面 PL40	
TP10	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	-	長石・石英・雲母	普通	底部斜面内に剥離文を充填	B 2 区確認面	3%後期面 PL40		
TP13	縄文土器	浅鉢	-	(4.1)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	11号段下端に複数の沈降区画文。	C 3 区確認面	5%中期中型 PL40	
TP15	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・雲母	普通	11号段下端に斜打条線文	B 1 区確認面	5%前期面 PL40		
TP17	縄文土器	深鉢	-	(2.9)	-	長石・石英・雲母	赤い褐	普通	口辺部は他の直線條文を平行した条線文	D 3 区確認面	3%後期面 PL40	
TP18	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英・雲母	赤い褐	普通	底部は他の直線條文を堆疊に複数の直線條文	C 3 区確認面	5%中期中型 PL40	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	調片	5.4	2.8	1.1	11.5	グリーンタフ	縱長調片、上部に剥離面打痕、表面に微細な剥離痕	C 3 区確認面	PL40
Q2	スチーパー	5.4	4.1	1.2	14.1	グリーンタフ	縱長調片、上部に剥離面打痕、表面に微細な剥離痕	C 4 区確認面	PL40
Q3	打製石斧	11.5	6.7	2.0	179.9	流紋岩	分割形、自然面を残す	C 4 区確認面	PL40

番号	器種	長さ	幅	厚さ	口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	有効円板	1.7	1.7	0.4	0.15	2.5	滑石	片面からの穿孔、丁寧な研磨	C 3 区確認面	PL40

第4節 まとめ

今回の調査によって、当遺跡からは縄文時代の陥し穴2基、奈良・平安時代の竪穴住居跡16軒、火葬墓2基、上坑1基、時期及び性格不明の方形竪穴造構2基、溝3条、土坑10基、不明遺構2基が検出された。また、縄文土器から奈良・平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器をはじめ、金属製品などが出土している。

今回の調査は、遺跡全体の南側一部分の調査であり、検出された遺構は奈良・平安時代を中心である。これらの遺構や遺物などから、当遺跡は縄文時代から平安時代まで断続的に集落が営まれていたと想定され、集落の中心は未調査区域の可能性が高い。

ここでは、奈良・平安時代の遺構と遺物について概要を述べ、さらに、支谷の対岸に位置して遺構や遺物が酷似する花房遺跡との関連性についても触れてみたい。

1 大日遺跡の遺構・遺物について

奈良・平安時代の竪穴住居跡の確認数は16軒であり、他に火葬墓2基、土坑1基が検出され、第15号住居跡以外は低位段丘上に位置している。また、第2号住居跡を除いた住居跡は、いずれも9世紀代に比定される当遺跡の中心をなしており、盛衰はあるものの集落は継続的に営まれていたと推定できる。特に、9世紀前葉の住居跡6軒はすべて西窓であり、主軸も北から西へ68~88°以内で構築されており、調査区東側の低位段丘上に位置している。また、第7・10号住居跡は耕作による擾乱を受けて出土遺物が少ないが、北から西へ68~

88° 以内の西竪であり、9世紀前半と判断した¹⁾。

遺物は、土師器や須恵器が主体であり、その他には灰釉陶器、金属製品（刀子、手鏡、帶金具）などが出土している。第2号住居跡は8世紀中葉と考えられ、須恵器の内・外面に漆状のものが付着したものが出土し、漆工品を製作していた可能性も想定されるが、工房の存在を裏付けるような遺物の出土は見られず、明確ではない。また、9世紀後葉の第3号住居跡では、床面から多量の炭化材や焼土塊が検出され、床面に赤変した部分も認められた。炭化材の一部は棚状施設に倒れかかるようにも検出されていることから、廃絶後すぐに焼失したものと判断できた。また、9世紀前葉に比定される第12号住居跡の覆土中から瓦塔片が出土している。他の遺構からの出土はないが、つくば市下大井遺跡²⁾、牛久市ヤツノ上遺跡³⁾、などでは仏堂と考えられる掘立柱建物跡が検出されており、当遺跡の調査区域外にも同様の建物跡などの仏教関連施設の存在を想定することができる。

（1）棚状施設について

当遺跡からは、竪を付設している壁に砂質粘土を貼った棚状施設を有する住居跡が6軒（第3・9・11・12・13・14号住居跡）検出され、住居跡全体の37.5%に相当する。また、竪側の壁に砂質粘土が貼り付けられていることから棚状施設を持つ可能性が想定できる住居跡も4軒（第4・5・8・16号住居跡）検出され、それらを合わせると10軒（62.5%）となる。その中で、9世紀前葉に該当する住居跡はいずれも西竪であり、棚状施設は竪に向かって右側に設けられているA型で、9世紀中葉から後葉に該当する住居跡はすべて北竪であり、棚状施設は竪の両側に設けられているB型である⁴⁾。これらの事実から、時期を追うごとに住居跡の占有面積における棚状施設の面積比率が多くなり、棚状施設の使用状況や形態の移り変わりの一端を示している。

さらに、棚状施設の構築にあたって粘土を充填もしくは化粧することについては、前述した花房遺跡の場合と同様であり、東京・千葉（下総）・茨城に多い傾向にあり⁵⁾、第12号住居跡の棚状施設からは須恵器杯が出土している。

（2）火葬墓

当遺跡からは、9世紀後葉の火葬墓が2基検出されている。いずれも調査区北西部の台地縁辺部に位置している。第1号火葬墓は、黒竪90号窓式に比定される灰釉陶器の短頸壺を骨蔵器とし、土師器高台付皿と須恵器鉢で二重の蓋をした3器種構成である。第2号火葬墓は、黒竪14号窓式に比定される灰釉陶器の長頸壺を骨蔵器とし、第1号火葬墓と同様に土師器高台付皿と須恵器鉢を蓋とした3器種構成である。長頸壺の頭部は欠損しており、周囲から頸部片が出土しないことや、破損部分に多少の摩耗が認められることなどから、すでに納骨の段階には打ち欠かれていたと考えられる。

本県は、千葉県と並んで猿投窓系灰釉陶器利用の骨蔵器の出土例が多く、現在16例を数える⁶⁾。これらは霞ヶ浦周辺地域からの出土例が多く、その背景には霞ヶ浦や利根川（旧鬼怒川）水系を利用した物資輸送の容易な状況が説かれており⁷⁾、必然的に流通する猿投窓灰釉陶器の個体数が多かったことに起因すると推測できる。さらに、灰釉陶器を嗜好し、骨蔵器として使用することで土師器や須恵器の骨蔵器との差異性を強調しようとする裕福な富豪層の存在も容易に想像できる。

当遺跡では、2つの火葬墓に関わる可能性をもつ階層に結びつくような遺構は確認されていないが、それら富豪の存在する可能性が想定される。

(3) 文字資料について

当遺跡からは、墨書き 7 点、線刻 2 点、ヘラ書き 1 点の計10点の文字資料が出土している。中でも、9世紀後葉の第3号住居跡から5点まとめて出土していたのは興味深い。土師器壺に墨書きされている「壬」は妊（はらむ）を語源としており、当時の人々が住居を廃棄して土地を去るにあたっての何らかの祭祀行為に使用されたものとも想定できるが明確ではない。また、同じ住居跡から出土している須恵器鉢に線刻された「非」は、惡靈を払い、願意成就のための九字の略号（魔除け符号）と考えられ、「罪司」による死の裁きから免れるための供養行為を想定することができる。第14号住居跡から出土している「祢」カは、「刀弥（刀称）」「刀禰」に通じ、第6号住居跡から出土した帶金具（丸柄）と合わせ、当遺跡内に官人の存在を想定することもできる。また、第2号火葬墓から出土した高台壇の底部には「父」カと墨書きされ、千葉県苗見作遺跡での「母」と墨書きされた例⁸⁾と類似しており、被葬者や埋納者に関わる文字資料が少ないとから興味深い。

2 花房・大日遺跡の関連性

花房遺跡は、面積的に大きな遺跡として周知されており、桂川の支流に浸食された支谷の南東側に位置する大日遺跡は、桂川低地との間に位置する台地縁辺部だけが遺跡として確認されている。しかし、両遺跡は桂川支流の支谷を挟んだ別丘の台地縁辺部に隣接し、支谷奥では同じ台地となることから、一つの大きな集落としても捉えることも可能である。

花房・大日両遺跡の総住居跡35軒のうち、棚状施設が確認できた住居跡は16軒で、住居全体の45.7%であり、9世紀代全般で検出されている。また、確認された16軒の内、竈の両側に棚状施設を有する住居跡は13軒(81.2%)であり、すべてが北竈で9世紀中葉以降の住居跡である。さらに、竈の右側に棚状施設を有する住居跡は3軒(18.8%)であり、いずれも9世紀前葉に比定される西竈である。これらのことから、9世紀前葉では西竈の右側に棚状施設を有する形態を示し、時期が下るにつれて竈は北へ移動して竈両側に棚状施設をもつ傾向を示すことが理解できる。棚状施設を有する住居跡を使用した人々については、「齊一性の強い様相を呈することから、その背景には同一の集団が関わっていたものと推測され。(中略) 非農業民である特定工人集団の関与を(中略) 示している」⁹⁾という論説もあるが、両遺跡では特定工人集団に結びつくような遺構の発見はない。しかし、棚状施設を有する堅穴住居跡の検出率が高く、有機的な関連があったと考えられることからも、両遺跡の様相を知る上で一つの視点となる。また、両遺跡の平安時代の様相は、9世紀前葉の住居跡群が位置する大日遺跡の南東部から9世紀後葉の住居跡が位置する花房遺跡への移動と捉えることもでき、堅穴住居跡に占める棚状施設の占有率が高くなることも両遺跡の具体的な様相を探る上で有効な資料となる。

また、両遺跡では绳文時代から古墳時代にかけて断続的に集落が営まれており、農業生産を基盤とした生活様式が想定される。その後、奈良・平安時代の両遺跡には規模の大きな集落が営まれるようになる。人々は、桂川及びその支流の水系を利用した農業生産を主体としつつも棚状施設を有する住居跡を用い、特定工人集団の存在できる集落への変貌も想定できる。これは、仏教的な意味の墨書き上器や瓦片の出土から寺の存在が想定でき、さらに、村落内に仏教関連施設を管理運営できる富豪層の存在も想定される。また、両遺跡で検出された火葬墓は、集落内の富豪層の存在を裏付けるとともに、嗜好品である灰釉陶器を骨蔵器として利用できる富豪層であったと考えられ、帶金具（丸柄）の出土は、集落内に官衙に関連した人物の存在を示唆するものであり、穿った見方をすれば、末端官人として役割を担っていた人物の存在まで想定できるのである。

今回の両遺跡の調査は、いずれも遺跡全体の一部分の調査にしかすぎないため両遺跡全体の様相については具体的に述べることはできないかもしれない。しかし、両遺跡はさらに北側の台地上に大きく広がって大規模

な集落が展開されていた可能性は十分に想定でき、位置的視点や遺構形態・出土遺物などから、時期的に消長を繰り返しながらも一つの大きな集落として営まれたと捉えることが可能であるが、これは今回の調査からうかがえる一部分にしかすぎない。

末筆ながら、発掘現場や整理作業でご指導ご助言を賜った方々に改めて感謝の意を表したい。

註

- 1) 第6・7号住居跡は、北壁に作り替えの竪を持つが、住居構築当時の主軸で判断した。
- 2) 島田和宏「一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書(3) 下大井遺跡2」『茨城県教育財團文化財調査報告』第197集 茨城県教育財團 2003年3月
- 3) 小高五十二「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書(1) ヤツノト遺跡』『茨城県教育財團埋蔵文化財調査報告』第81集 茨城県教育財團 1993年3月
- 4) 関口満ほか「上都市今泉塗園拡張工事事業地内埋蔵文化財調査報告書 根鹿北遺跡・栗山窯跡発掘調査報告書」土浦市遺跡調査会 1997年3月
- 5) 川津法伸「竪の脇に棚をもつ住居について」『研究ノート』第6号 茨城県教育財團 1997年6月
- 6) 桐生直彦「竪をもつ堅穴建物跡にみられる棚状施設の研究—関東地方の事例を中心に—」2001年4月
桐生氏は、東京・千葉(旧下総地域)・茨城は「粘土多用地域」と呼んでいる。
- 7) 吉澤悟「茨城県北浦町出土の灰釉短頸壺について」『MUSEUM』586号 東京国立博物館 2003年10月
- 8) 註7) と同じ
- 9) 右田広美「君津広域水道用水供給事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 角山遺跡・深城遺跡・飯富遺跡・苗見作遺跡」君津広域水道事業団 1980年3月
- 10) 桐生直彦「棚状施設をもつ堅穴建物の性格(2) —都市と農村の比較—」『國學院大學考古学資料館紀要』第18輯 國學院大學考古学資料館 2002年3月

写 真 図 版

谷 ノ 沢 遺 跡



調査前遺跡遠景



調査 第1区
遺物出土状況



調査 第1区
遺物出土状況

PL 2



調査第1区
遺物出土状況



調査第2区
遺物出土状況



調査第2区
遺物出土状況





第2号 陥し穴
完掘状況



第9号 土坑
完掘状況



第3号 陥し穴
完掘状況



第4号陥し穴況
完掘状況



第5号陥し穴況
完掘状況



第6号陥し穴況
完掘状況



2区 - Q8



2区 - Q9



接合資料1



2区 - Q21



TP4 - Q1



TP9 - Q2



2区 - Q16



2区 - Q17



2区 - Q18



2区 - Q19



2区 - Q20



2区 - Q22



2区 - Q6



2区 - Q25



2区 - Q5



2区 - Q23



2区 - Q24



2区 - Q3



2区 - Q13



2区 - Q14



2区 - Q10



2区 - Q12



2区 - Q11



2区 - Q15



接合資料2



写 真 図 版

手 接 遺 跡



調査終了状況



第1号火葬墓遺物出土状況



第1号住居跡
完掘状況



第1号住居跡
遺物出土状況



第1号住居跡
遺物出土状況



第1号住居跡貯藏穴
遺物出土状況

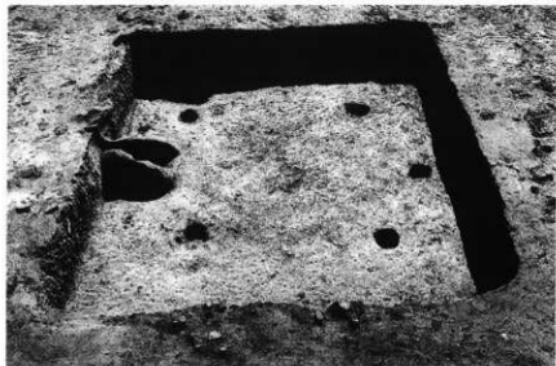


第2号住居跡
完掘状況



第2号住居跡
遺物出土状況

PL10



第3号住居跡
完掘状況



第3号住居跡
完掘状況



第3号住居跡
遺物出土状況



第3号住居跡
遺物出土状況



第4号住居跡
完掘状況



第1号火葬墓
遺物出土状況

PL12



SI1 - 1



SI1 - 2



SI1 - 3



SI2 - 9



SI2 - 11



SI3 - 13



SI1 - 8



SI3 - 14

第1・2・3号住居跡出土遺物



Si1 - 6

Si1 - 7



Si3 - 16



第1号火葬墓 - 19

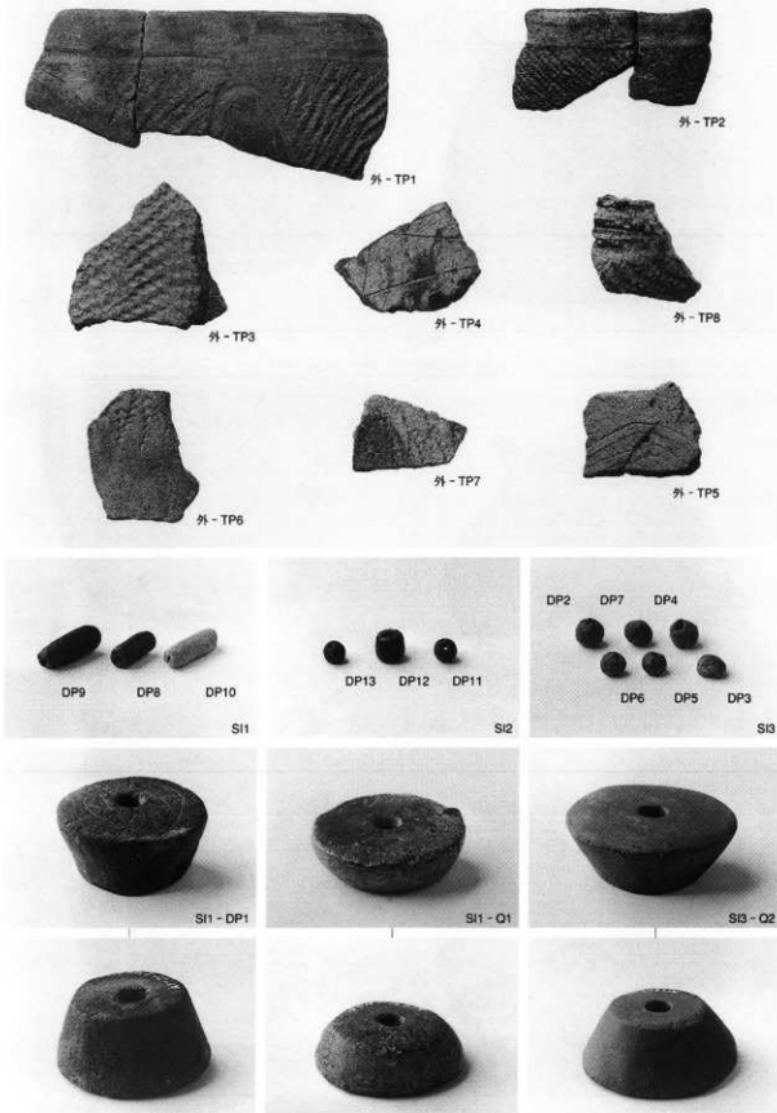


Si3 - 15



第1号火葬墓 - 20

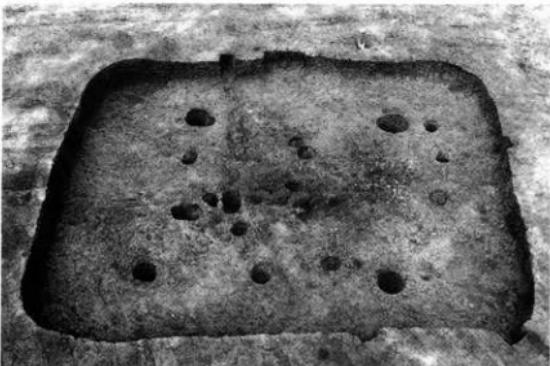
第1・3号住居跡，第1号火葬墓出土遺物



第1・2・3号住居跡、遺構外出土遺物

写 真 図 版

花 房 遺 跡



第3号住居跡
完掘状況

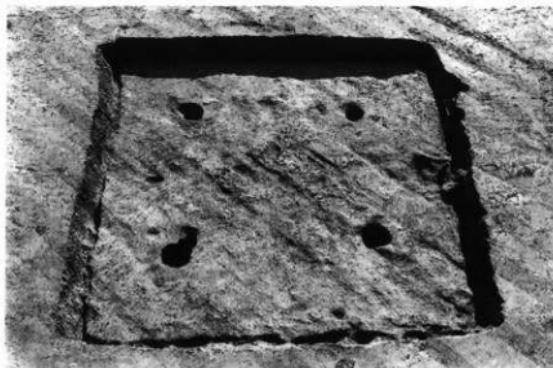


第7号住居跡
完掘状況



第5号住居跡
遺物出土状況

PL16



第19号住居跡
完掘状況



第6号住居跡
完掘状況



第9号住居跡
完掘状況



第9号住居跡遺物出土状況



第10号住居跡完掘状況



第11号住居跡完掘状況

PL18



第12号住居跡
完 挖 状 況



第13号住居跡
完 挖 状 況



第15号住居跡
完 挖 状 況



第17号住居跡
完掘状況



第17号住居跡
遺物出土状況



第18号住居跡
完掘状況



第1号火葬墓
遺物出土状況



第1号火葬墓
遺物出土状況



第1号火葬墓
遺物出土状況



SI4 - 58



SI5 - 15



SI7 - 5



SI4 - 13



SI7 - 4



SI5 - 14

第4·5·7号住居跡出土遺物



SI4 - 8



SI9 - 32



SI8 - 24



SI9 - 29



SI8 - 26



SI9 - 30



SI8 - 25



SI9 - 31



SI6 - 18



SI9 - 28



SI11 - 50



SI9 - 33



SI12 - 59



SI20 - 108



SI11 - 45



SI12 - 61



SI11 - 46



SI12 - 60



SI11 - 55



SI9 - 40

第9·11·12·20号住居跡出土遺物



SI15 - 83



SI13 - 67



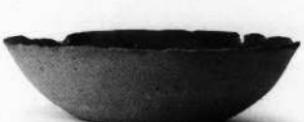
SI15 - 75



SI18 - 105



SI15 - 74



SI15 - 73



SI15 - 82



SI17 - 92



SI12 - 62



SI12 - 63

第12・13・15・17・18号住居跡出土遺物



SI9 - 35



SI20 - 109



SI23 - 121



第1号火葬墓 - 133



SI17 - 102



第1号火葬墓 - 132



第9・17・20・23号住居跡, 第1号火葬墓出土遗物



第1号火葬墓 - 134



SI11 - 53



SI11 - 54



SI9 - 37



SI9 - 39



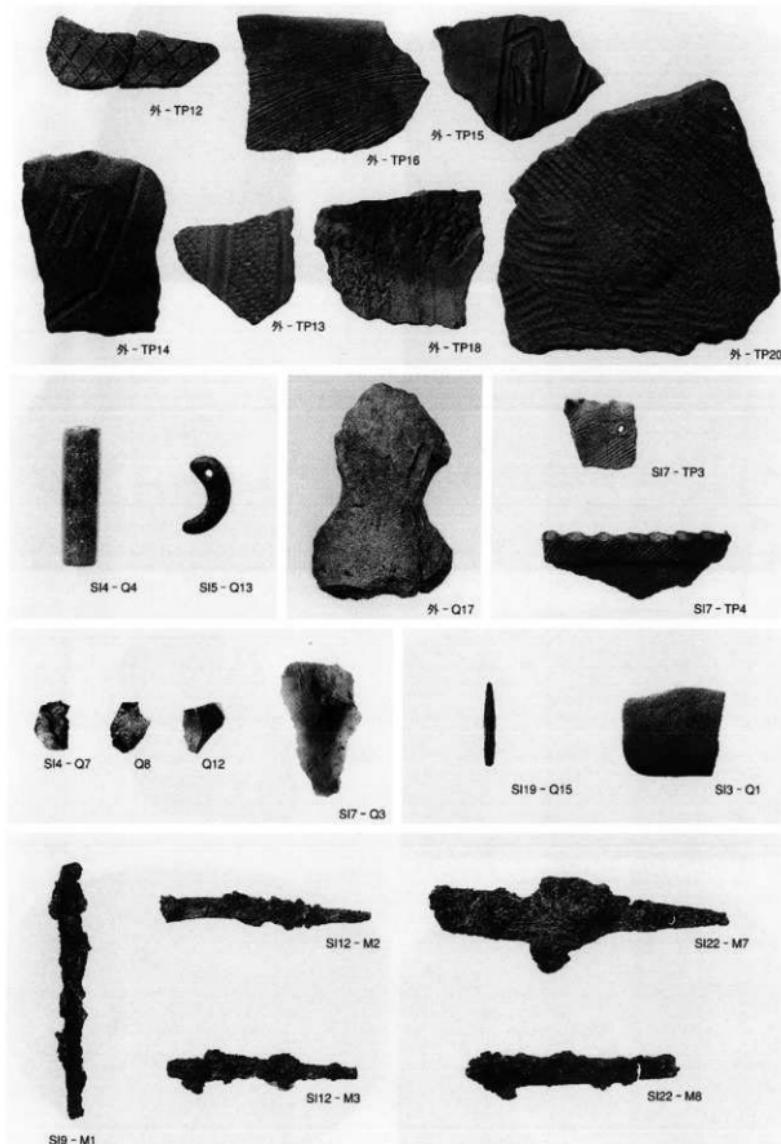
SI9 - 38



第9·11号住居跡出土遺物



第6·11·12·13号住居跡出土遺物



第3·4·5·7·9·12·19·22号住居跡，造構外出土遺物

写 真 図 版

大 日 遺 跡



第1号住居跡況
完掘状況



第1号住居跡況
遺物出土状況



第2号住居跡況
完掘状況

PL30



第2号住居跡遺物出土状況



第3号住居跡完掘状況



第3号住居跡遺物出土状況



第4号住居跡竪
遺物出土状況



第5号住居跡
完掘状況



第6号住居跡
完掘状況



第8号住居跡
完掘状況



第9号住居跡
完掘状況



第9号住居跡
完掘状況



第12号住居跡
完掘状況



第13号住居跡
完掘状況



第13号住居跡
遺物出土状況

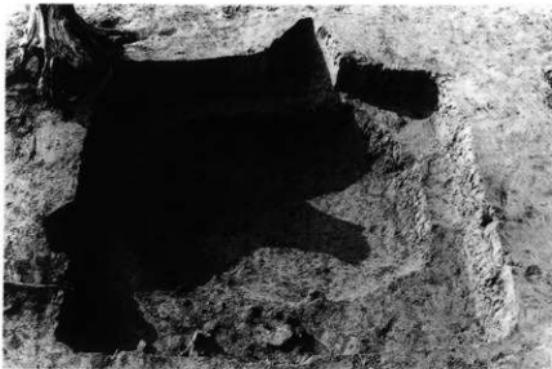
PL34



第13号住居跡
確認状況



第14号住居跡
遺物出土状況



第15号住居跡
完掘状況



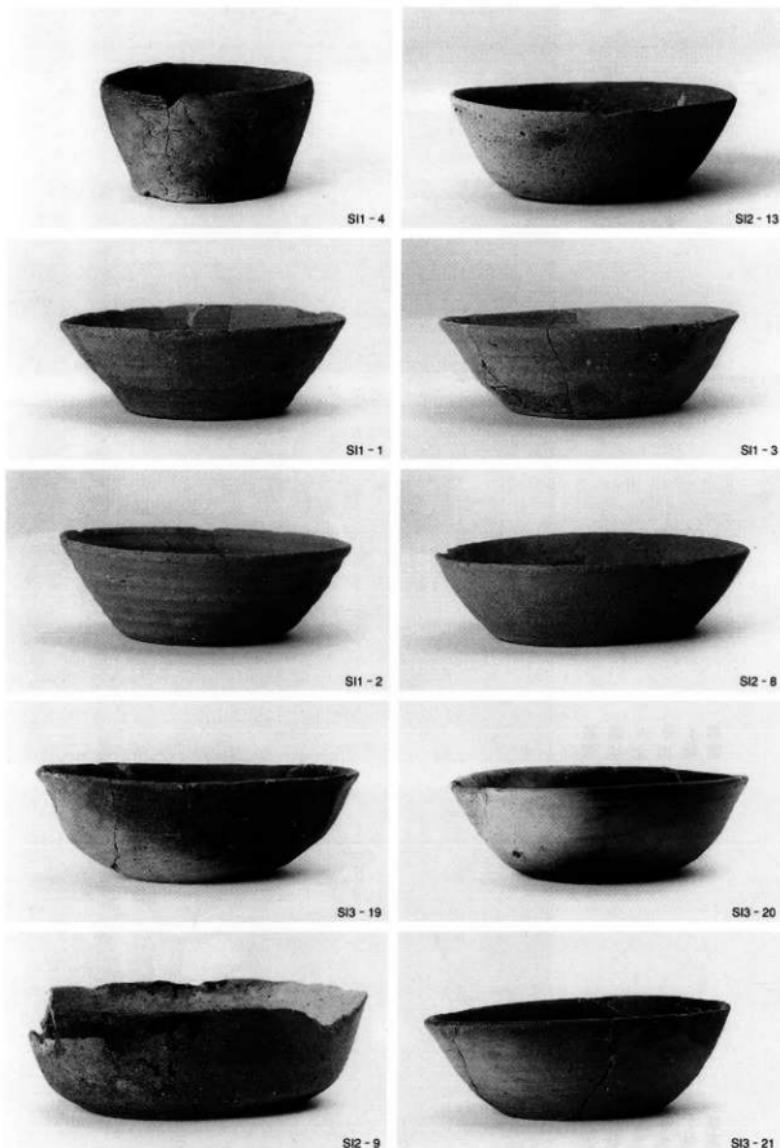
第16号住居跡
完掘状況



第1号火葬墓
遺物出土状況



第2号火葬墓
遺物出土状況



第1·2·3号住居跡出土遺物



SI6 - 38



SI3 - 28



SI12 - 65



SI14 - 78



SI11 - 58



SK19 - 96



SI9 - 54



SI8 - 51



SI2 - 14

第2·3·6·8·9·11·12·14号住居跡，第19号土坑出土遺物



SI6 - 42



SI6 - 41



第1号火葬墓 - 90



第2号火葬墓 - 83



第1号火葬墓 - 92



第2号火葬墓 - 95

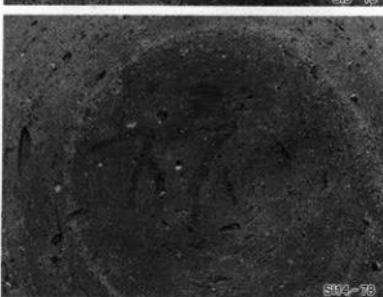


第1号火葬墓 - 91

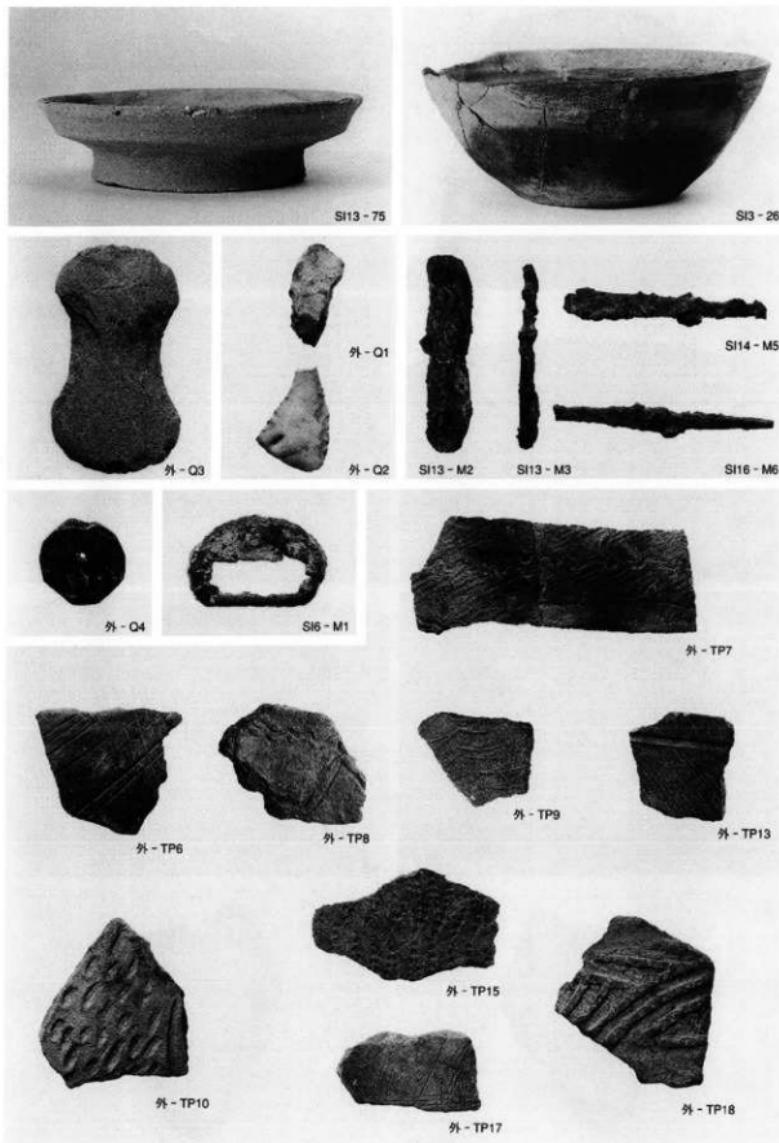


第2号火葬墓 - 94

第6号住居跡，第1·2号火葬墓出土遺物



第3·12·14号住居跡，第19号土坑，第2号火葬墓出土遺物



第3·6·13·14·16号住居跡、遺構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第212集

谷ノ沢遺跡
手接遺跡
花房遺跡
大日遺跡

平成16(2004)年3月21日 印刷
平成16(2004)年3月26日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0011 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 富士オフセット印刷株式会社
〒310-0067 水戸市根本3丁目1534-2
TEL 029-231-4241㈹

付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第212集

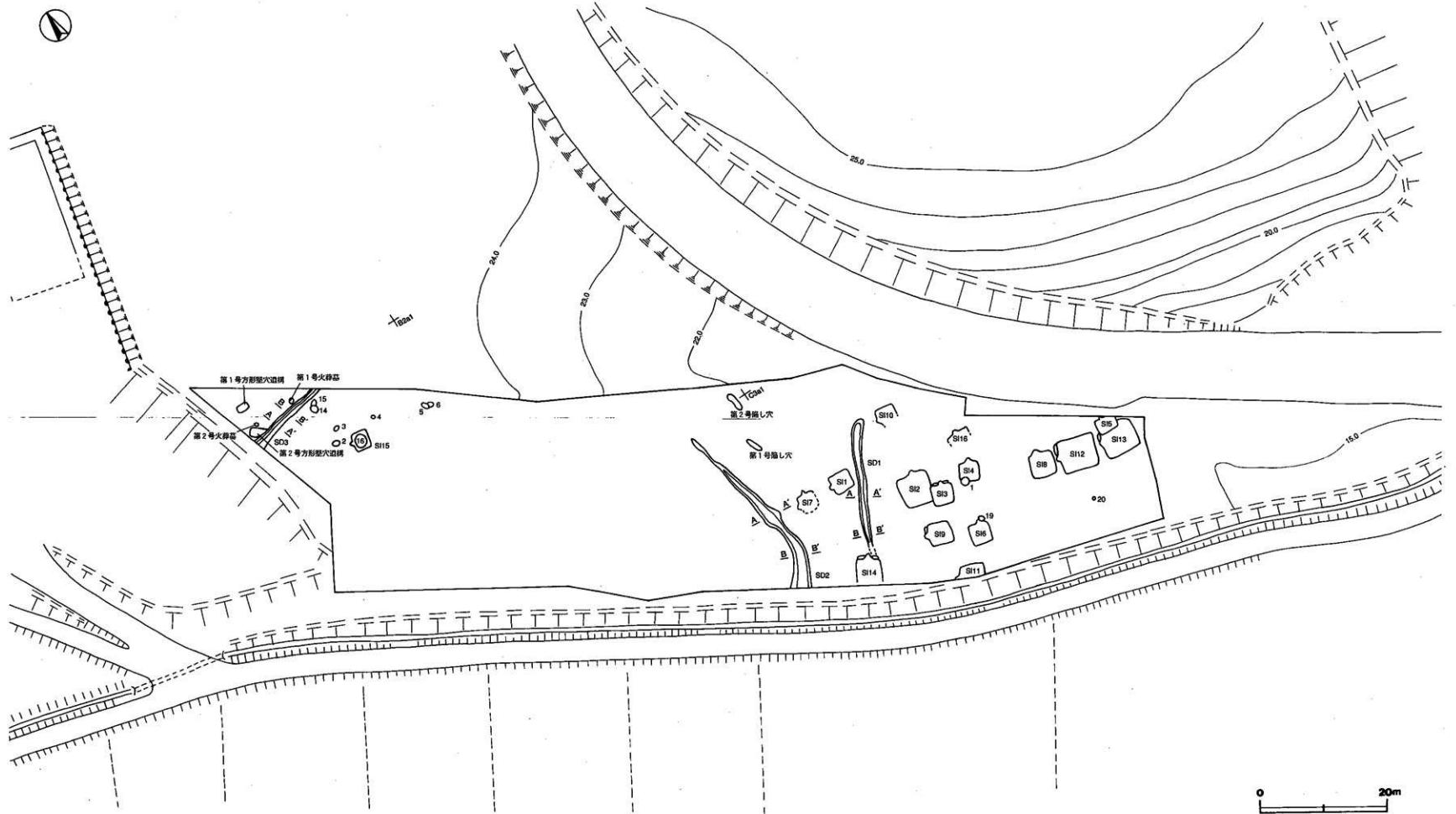
花房遺跡遺構全体図

大日遺跡遺構全体図

谷ノ沢遺跡遺構全体図



付図 花房遺跡遺構全体図（茨城県教育財団文化財調査報告書第212集）



付図 大日遺跡構全体図（茨城県教育財団文化財調査報告書第212集）

